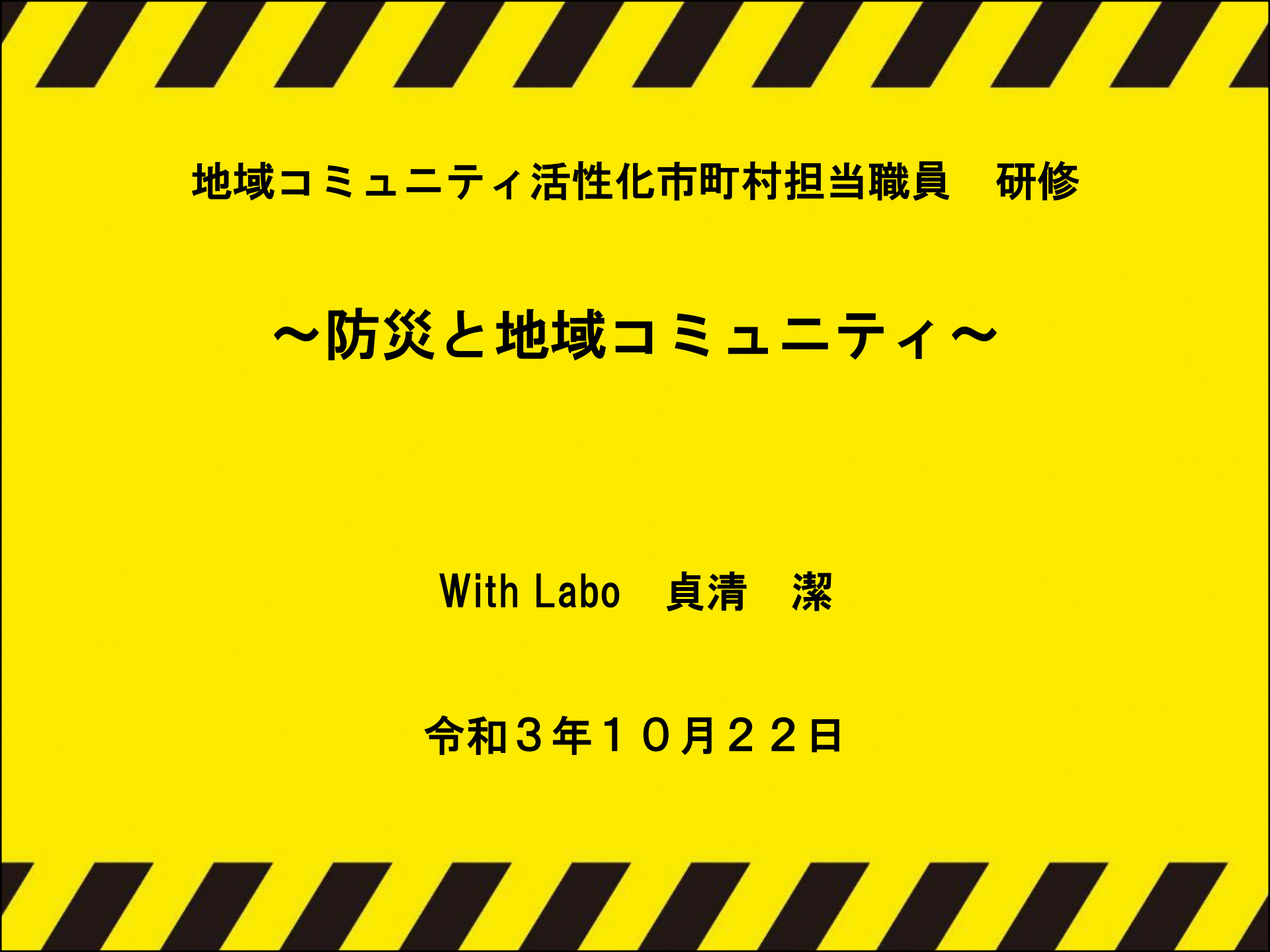




地域コミュニティ活性化市町村担当職員 研修

～防災と地域コミュニティ～

With Labo 貞清 潔

令和3年10月22日

自己紹介

貞清 潔

With Labo



□都市及び地方計画

□協働のまちづくり・住民参加・地域活動企画・運営

□コミュニティ政策学会

福岡市共創による地域づくりアドバイザー

福岡県まちづくり専門家

福岡県安全・安心まちづくりアドバイザー

研修プログラム

「防災と地域コミュニティ」

防災に関する地域コミュニティとしての取組、
そして行政として求められることを考えてみましょう

■問題提起

1. 近年の九州北部の主な自然災害
2. 「知る」ということ
3. 「学ぶ」ということ
4. 「想像」から「想定」そして「行動」へ
5. 「すぐに」「すばやく」「すえながく」

■意見交換

近年の九州北部の主な自然災害

福岡県西方沖地震（平成17年3月20日）

○発生日時：3月20日10時53分

○震源地：福岡県西方沖

○震源の深さ：約9 km

○規模：M 7.0

○津波：10:57 津波注意報
12:00 解除



○震度：・震度 6 弱＝東区、中央区

・震度 5 強＝早良区、西区

・震度 5 弱＝博多区、南区、城南区

中国・九州北部豪雨（平成21年7月24～26日）

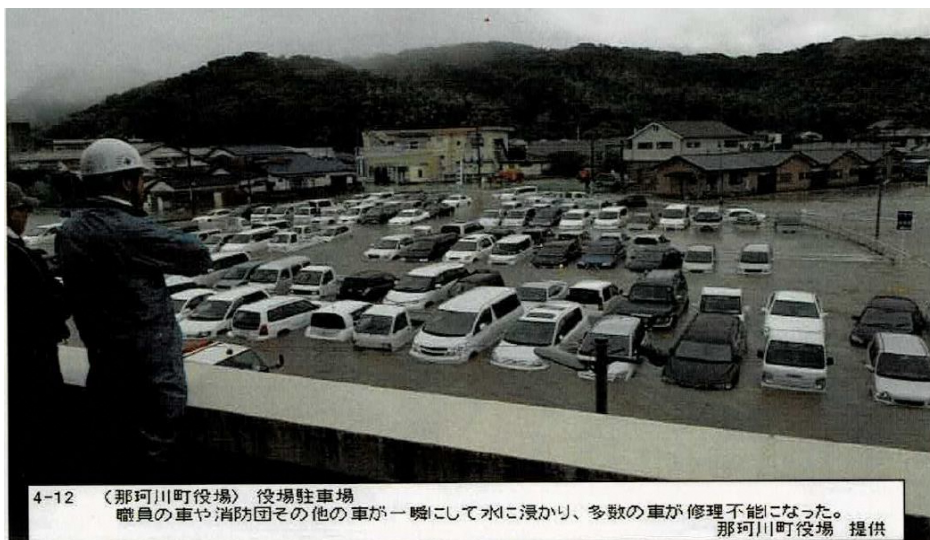
18:25～19:25の **1 時間**に**116mm**

17:00～21:00の **4 時間**で**205mm**

24日～26日までの**総雨量**は**517mm**

（福岡空港）

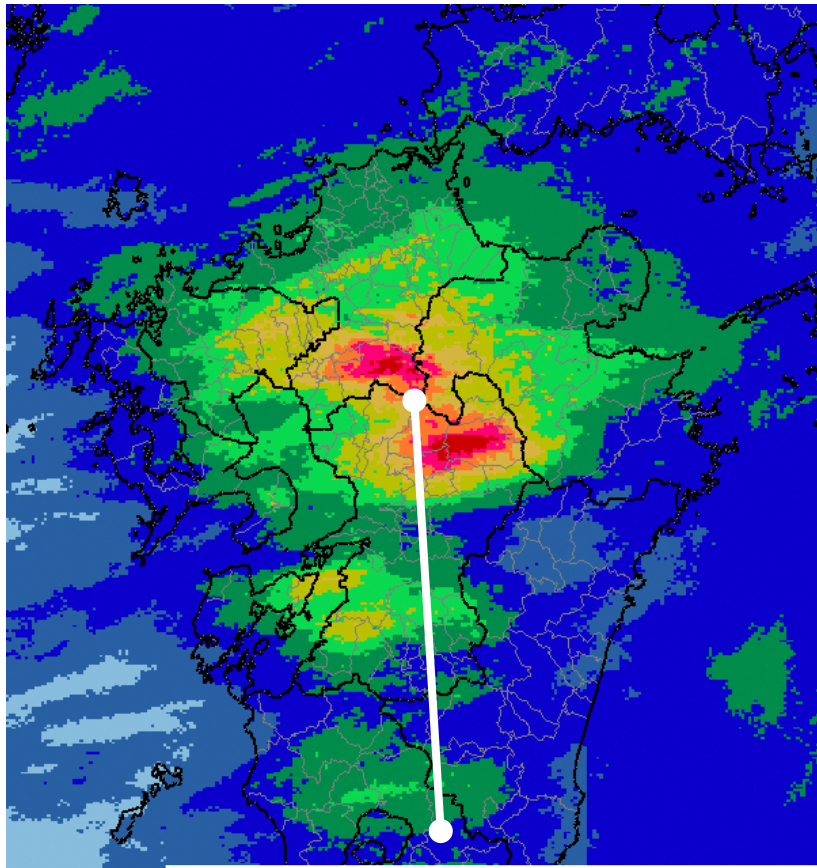
7月の月平均の 2 倍の降水量



4-12 〈那珂川町役場〉 役場駐車場
職員の車や消防団その他の車が一瞬にして水に浸かり、多数の車が修理不能になった。
那珂川町役場 提供



九州北部豪雨（平成24年7月11～14日）



八女市、日田市で
約800mm/4日



熊本地震（平成28年4月14日（前震）・16日（本震））

○発生日時：4月14日21時26分

○規模：M 6.5

○震度：7 = 益城町

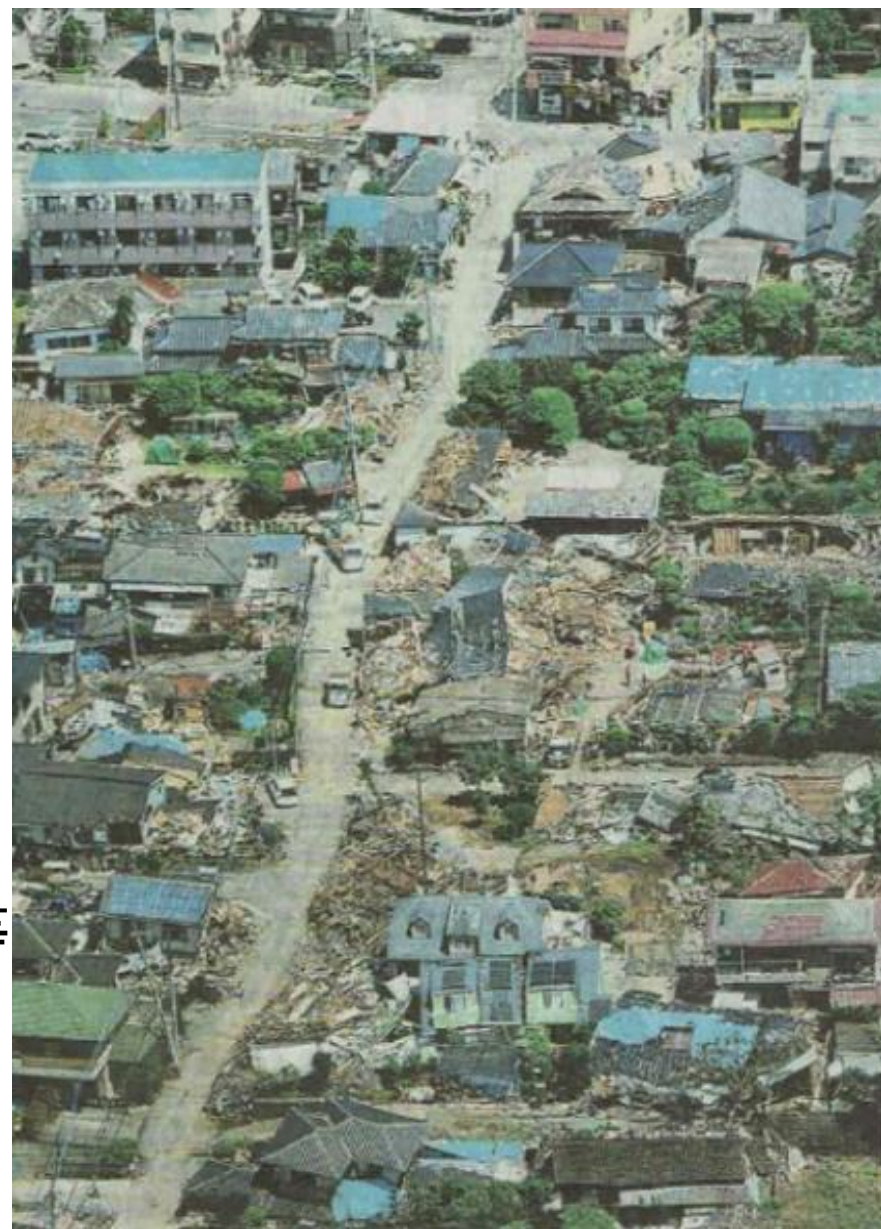
6 弱 = 熊本市、西原村等

○発生日時：4月16日1時25分

○規模：M 7.3

○震度：7 = 益城町、西原村

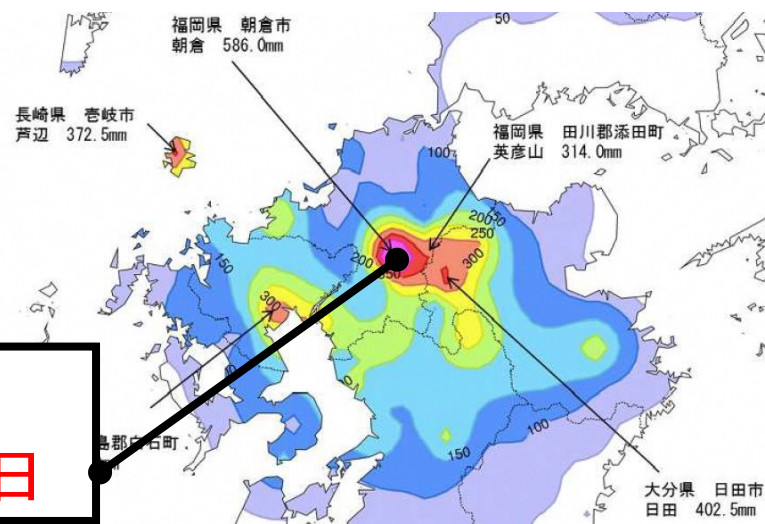
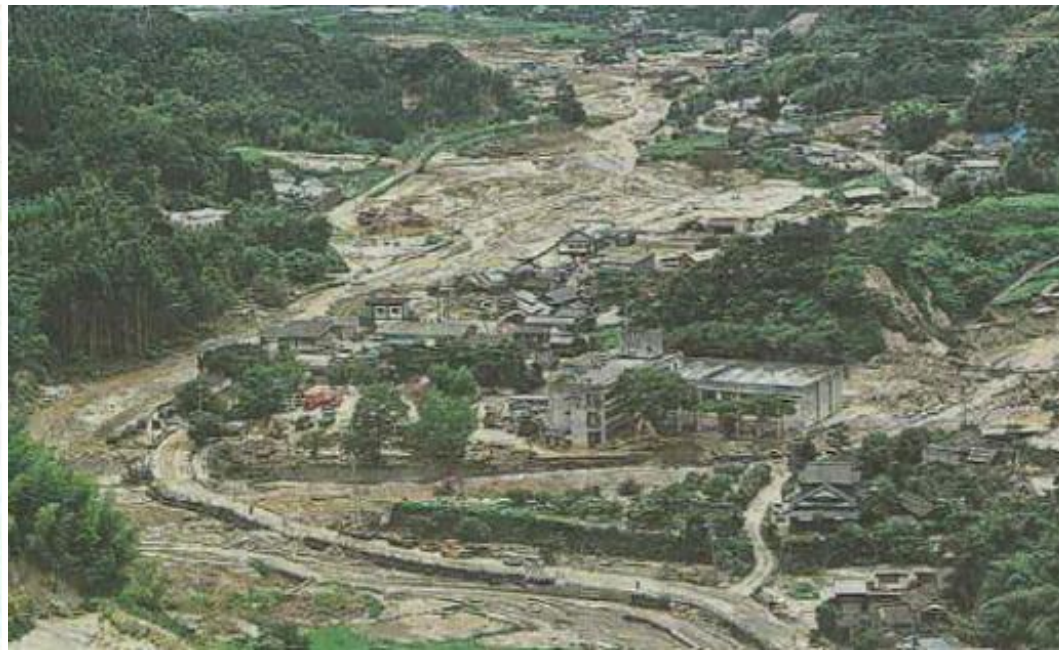
6 強 = 熊本市、南阿蘇村等



九州北部豪雨（平成29年7月5～6日）

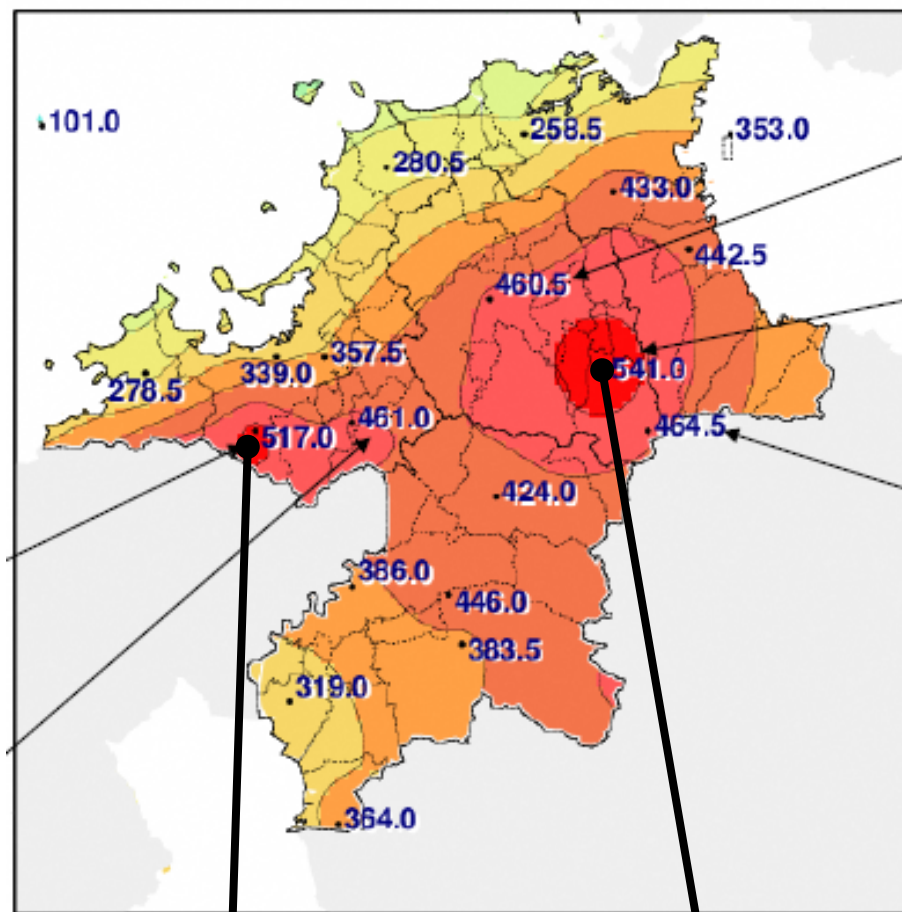


線状降水帯巨大キノコ雲
名島より

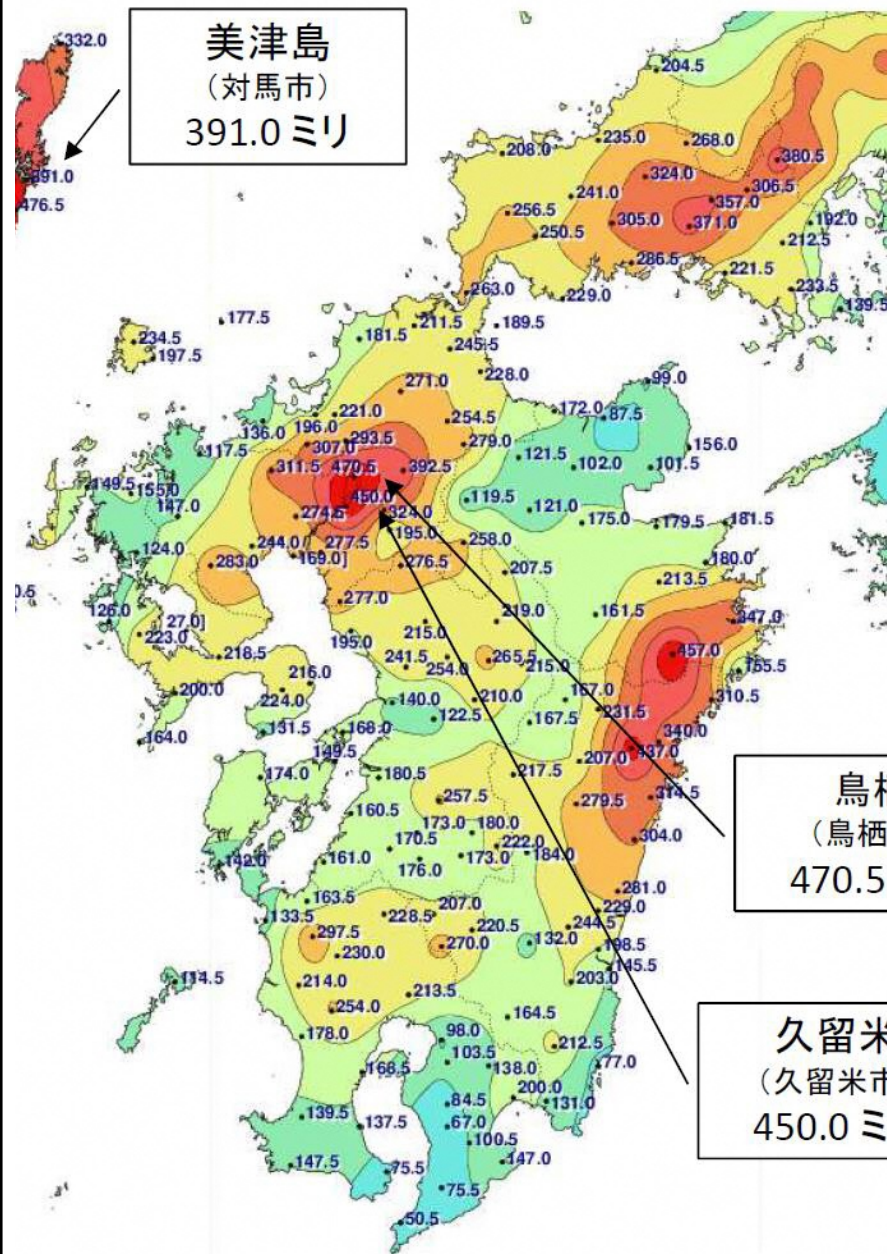


朝倉市
586mm/2日

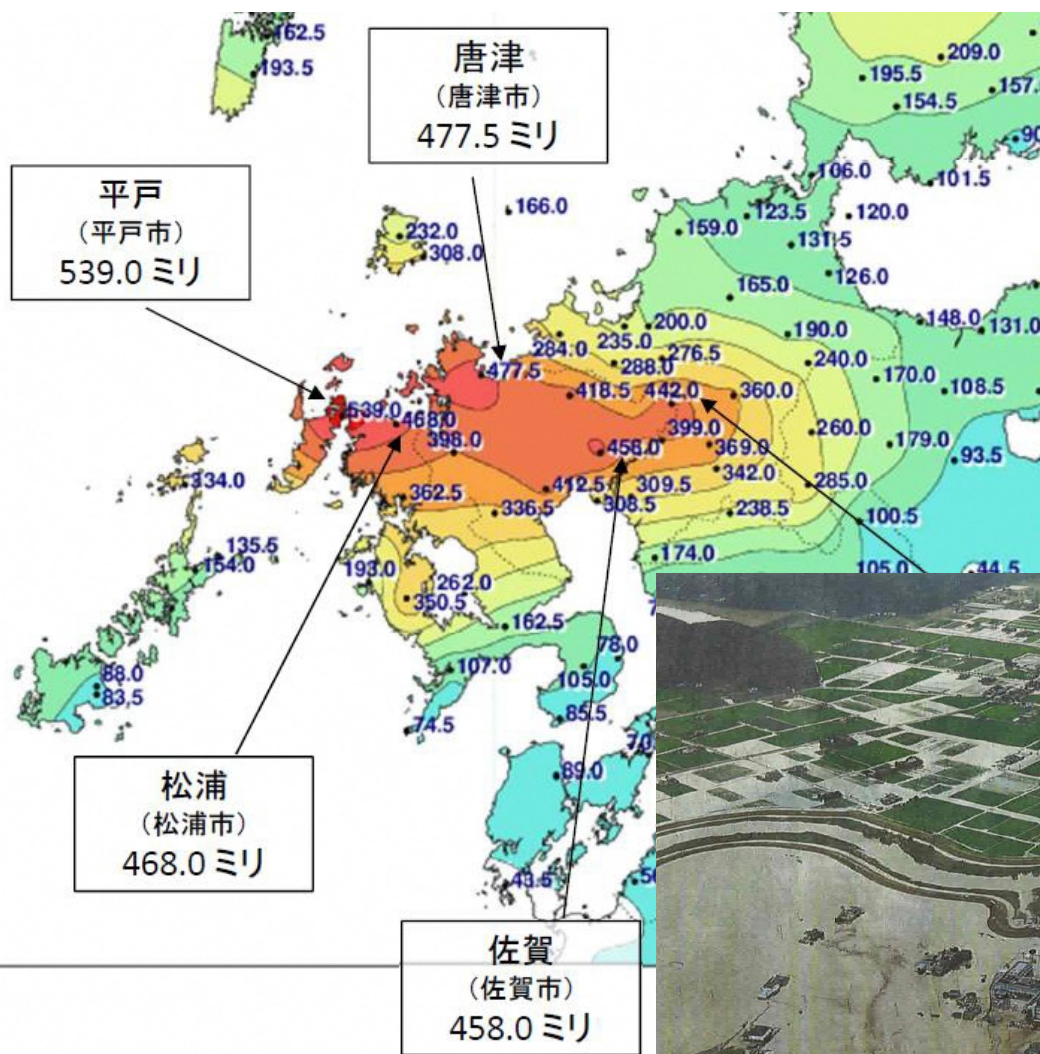
平成30年7月豪雨（平成30年7月5～8日）



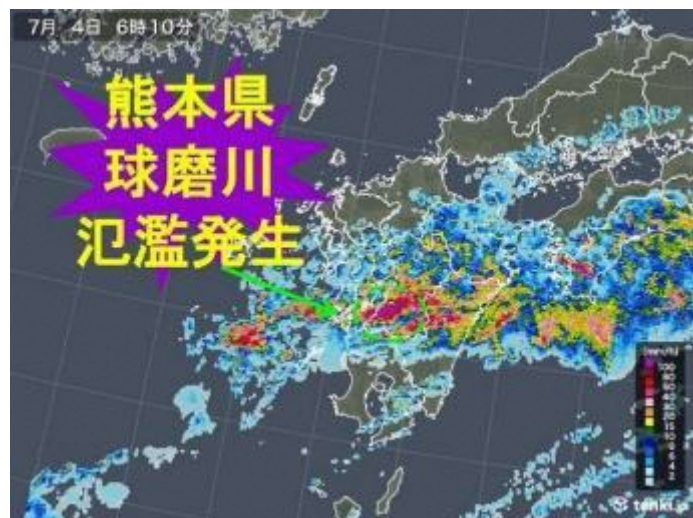
令和元年7月豪雨（7月18日～22日）



令和元年8月豪雨（8月26日～28日）



令和2年7月豪雨（熊本）（7月3日～4日）



7月4日4:50 大雨特別警報発令

■人吉市

降水量の極限值（7月3日～4日）

積算降水量 : 420.0mm

1時間降水量 : 69.5mm (7/4 02:02)

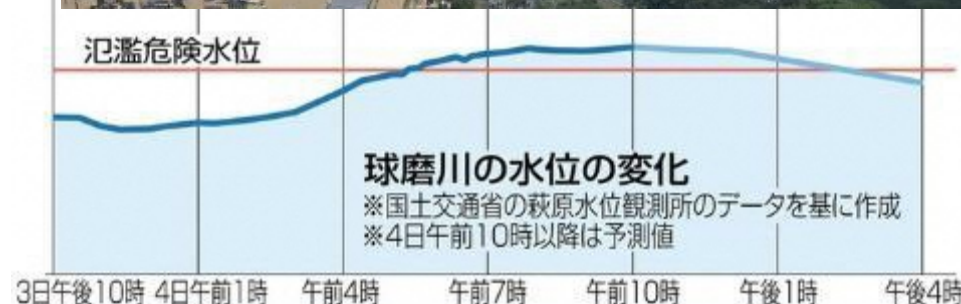
3時間降水量 : 125.0mm (7/4 05:30)

6時間降水量 : 184.0mm (7/4 05:30)

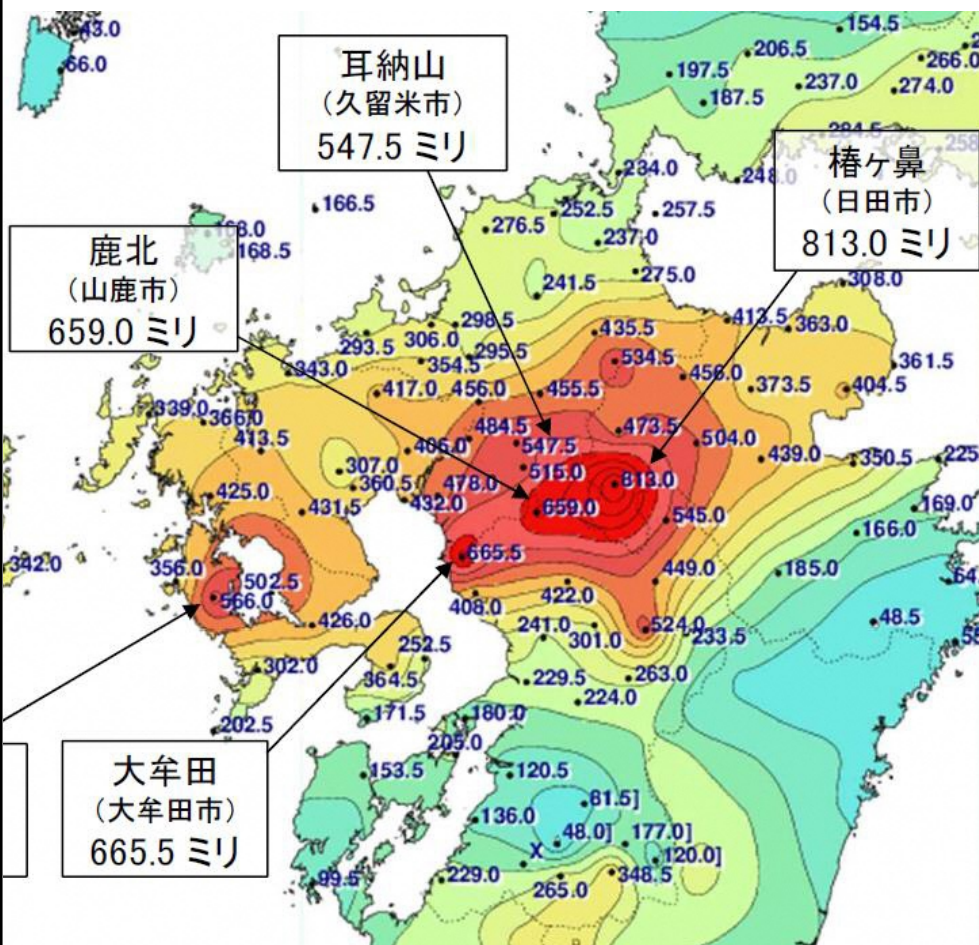
12時間降水量 : 340.5mm (7/4 09:20)

24時間降水量 : **410.5mm** (7/4 09:50)

(7月平均降水量 : 471.4mm)



令和2年7月豪雨（福岡）（7月6日～8日）

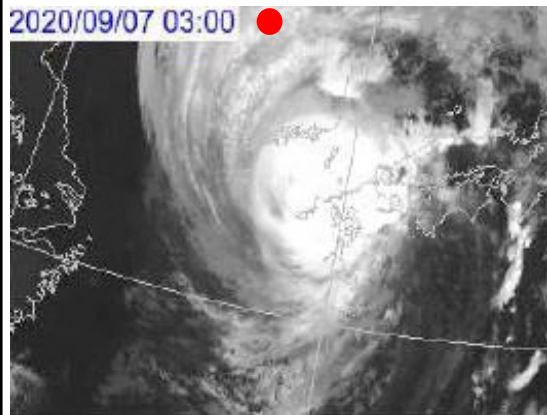


大牟田市 7月平均降水量：373.5mm

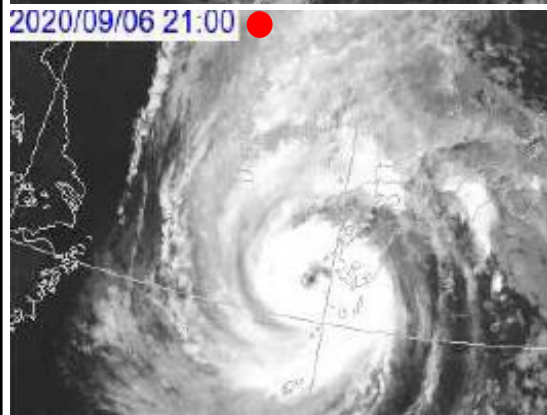


令和2年 台風10号 (9月6日)

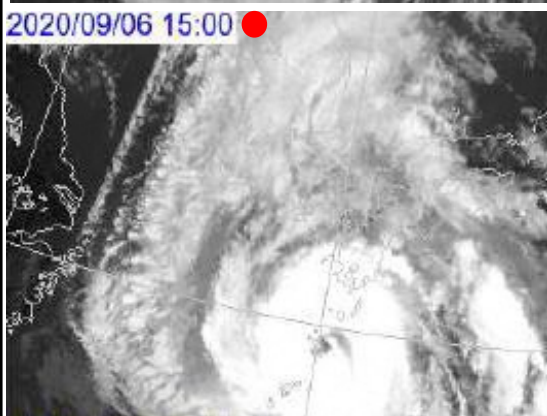
2020/09/07 03:00



2020/09/06 21:00



2020/09/06 15:00



7日06時 50 40

7日06時 950hPa

7日03時 45 45

7日03時 945hPa

7日00時 945 45

7日00時 945hPa

6日21時 945 45

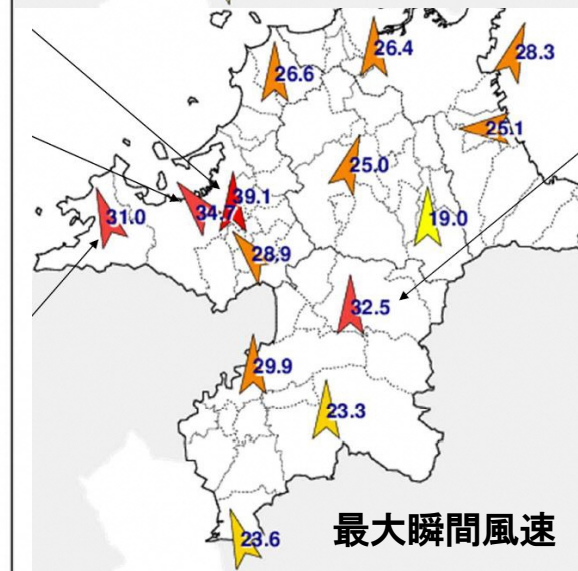
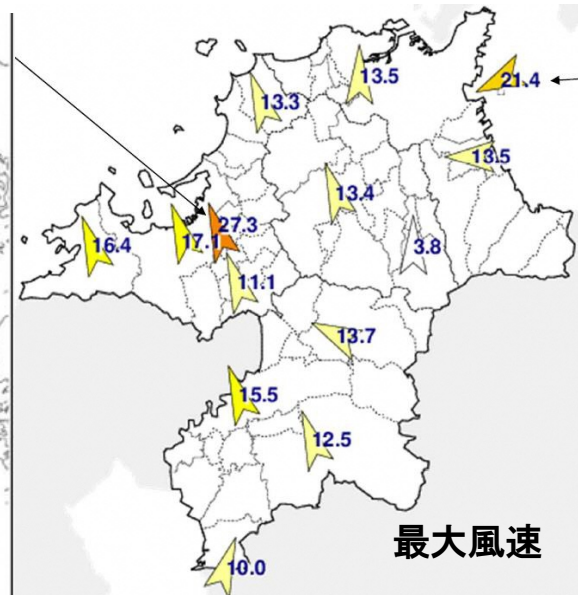
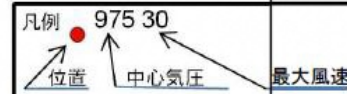
6日21時 945hPa

6日18時 945 45

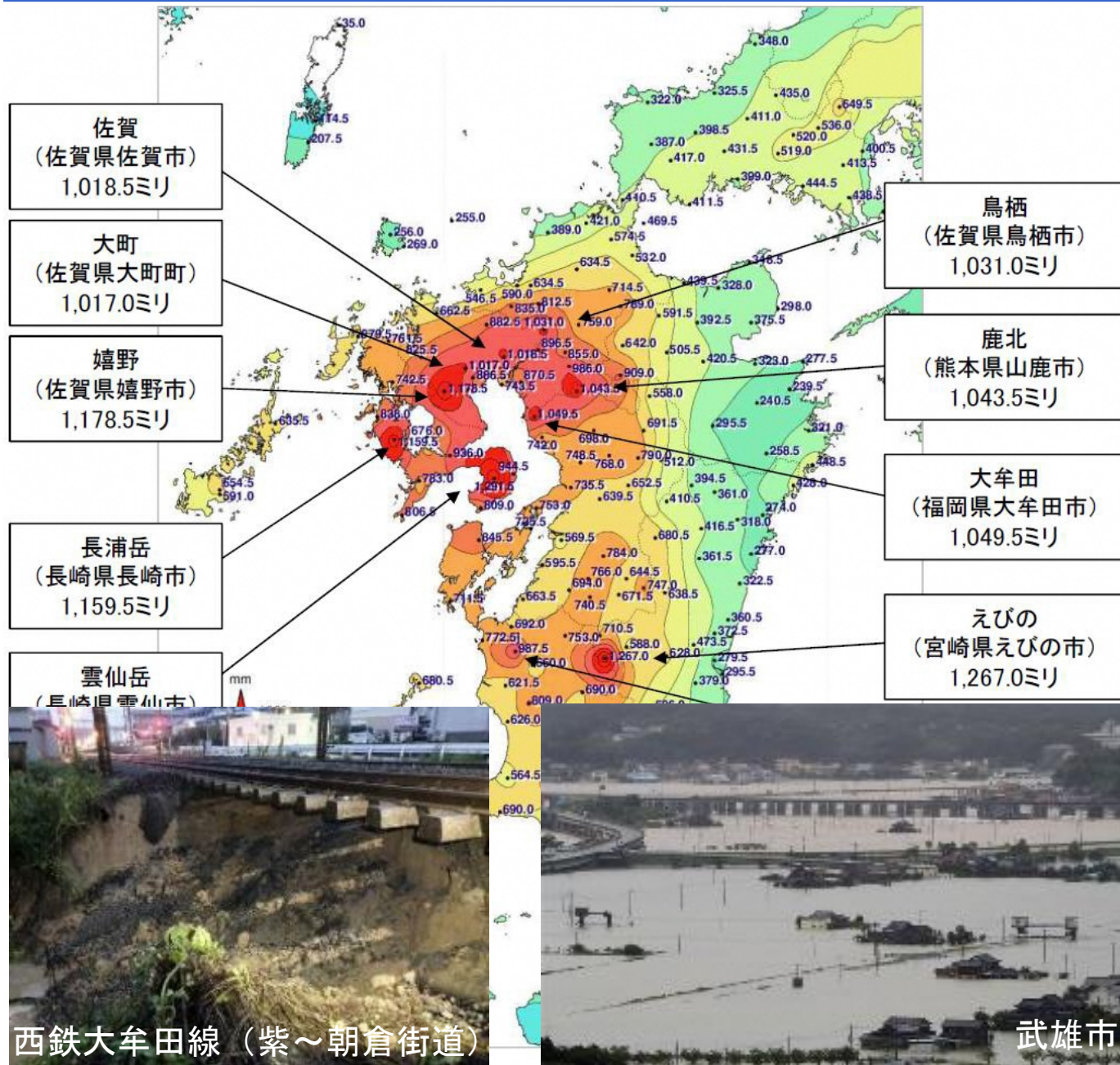
6日18時 945hPa

6日15時 945 45

6日15時 945hPa



令和3年 8月11日から19日にかけての大雨

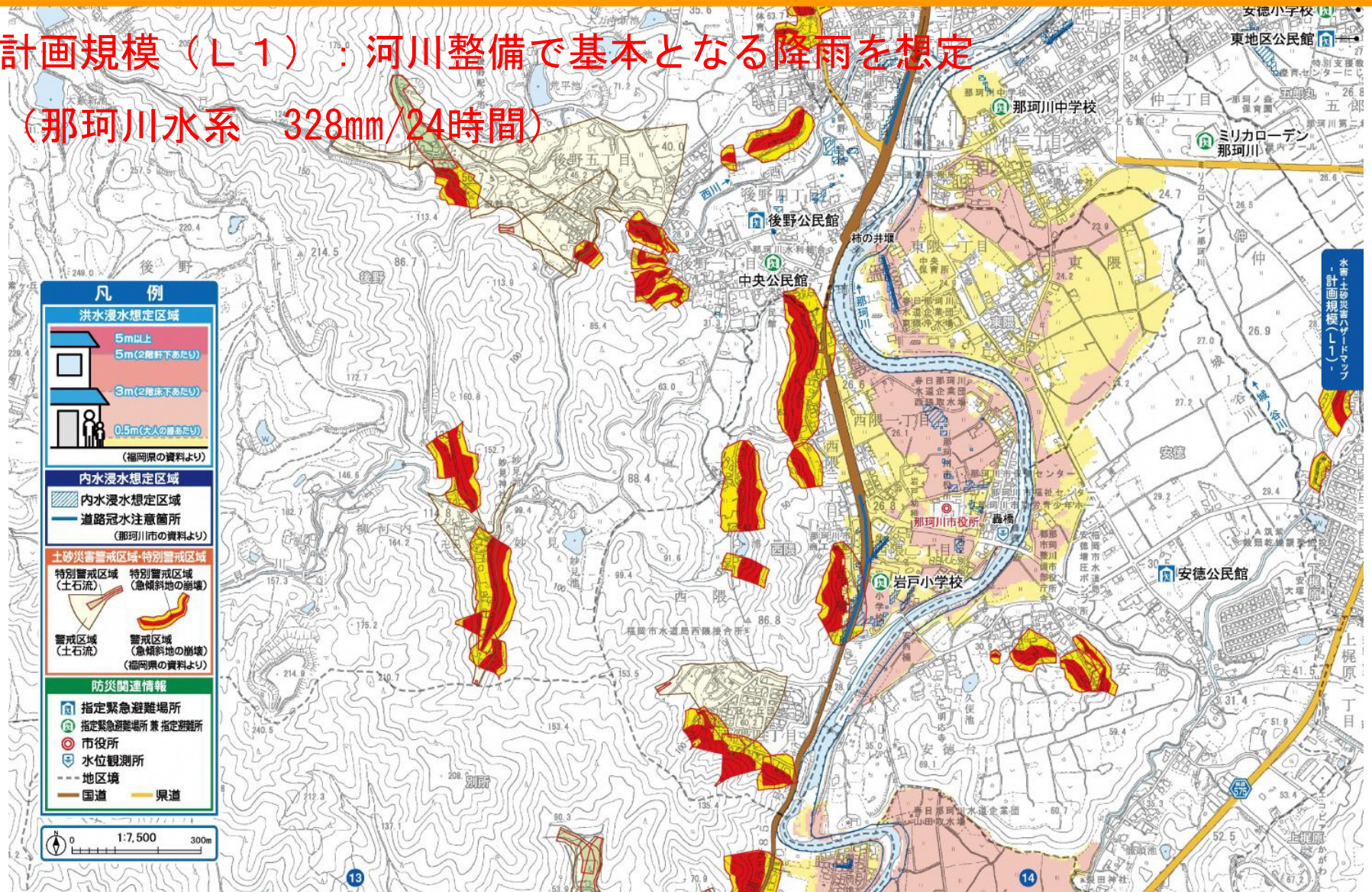


地点名	総降水量 (ミリ)
雲仙岳	1,291.5
えびの	1,267.0
嬉野	1,178.5
長浦岳	1,159.5
大牟田	1,049.5
鹿北	1,043.5
鳥栖	1,031.0
佐賀	1,018.5
大町	1,017.0
紫尾山	987.5
黒木	986.0
島原	944.5
諫早	936.0
椿ヶ鼻	909.0
久留米	896.5
白石	886.5
北山	882.5
柳川	870.5
耳納山	855.0
本渡	845.5
西海	838.0
早良脇山	835.0
伊万里	825.5
太宰府	812.5
口之津	809.0
八重山	809.0
脇岬	806.5

「知る」～災害のリスク～

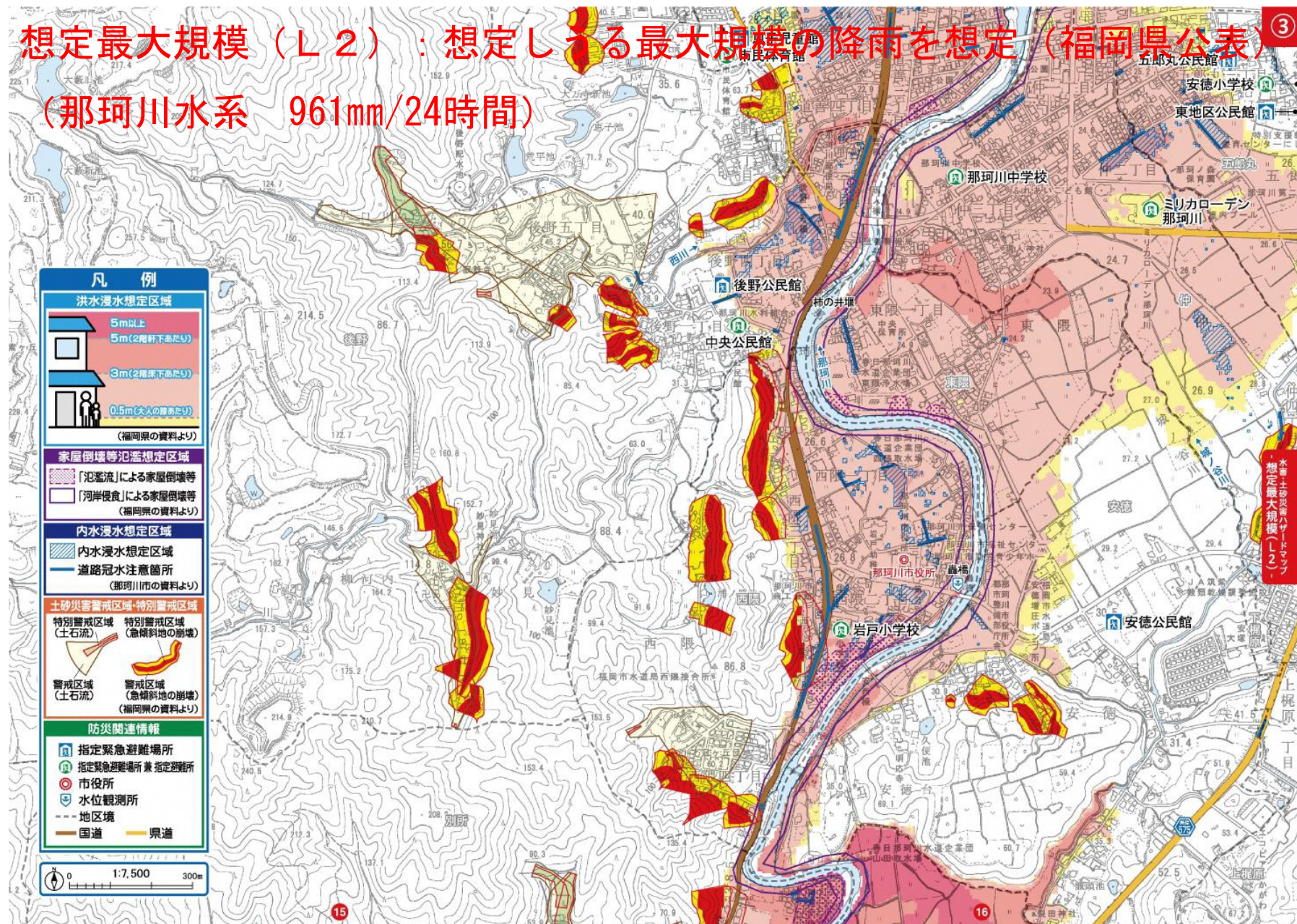
洪水浸水想定区域（計画規模 L1）・土砂災害ハザードマップ 那珂川市

計画規模（L1）：河川整備で基本となる降雨を想定
（那珂川水系 328mm/24時間）



洪水浸水想定区域（想定最大規模L2）・土砂災害ハザードマップ

想定最大規模（L2）：想定しうる最大規模の降雨を想定（福岡県公表）
（那珂川水系 961mm/24時間）



地震ハザードマップ(揺れやすさマップ)

揺れやすさマップは、那珂川市に影響を与える地震が発生した場合に、どのくらいの震度が予想されるかを地図上に示したものです。
このマップでは、
①警固断層を震源とする地震、
②どこでも起こりうる直下の地震、
の計測震度を重ね合わせ、最大となる震度を示しています。

避難場所一覧(地震時)

地区	名称	住所
南畑	① 南畑小学校 運動場	増倉530-1
	② 岩戸小学校 運動場	西隈2-6-43
	③ 中央公民館 駐車場	後野1-5-1
	④ 市民体育館 駐車場	恵子4-1-1
	⑤ 岩戸北小学校 運動場	恵子1-1-1
	⑥ 飯田溝公園	山田540
岩戸	⑦ 恵子中央公園	恵子4-210-1
	⑧ 恵子東公園	恵子2-59-12
	⑨ 片縄小学校 運動場	片縄北1-15-1
	⑩ 那珂川北中学校 運動場	片縄西3-26-1
	⑪ 福岡女子商業高校 運動場	片縄北1-4-1
	⑫ 岩戸公園	片縄3-117
片縄	⑬ 下片縄公園	片縄東1-559-1
	⑭ 今池公園	片縄北8-710-2
	⑮ 安徳南小学校 運動場	上梶原1-1-1
	⑯ 那珂川南中学校 運動場	上梶原1-2-1
	⑰ 那珂川中学校 運動場	仲3-19-1
	⑱ 三ツ力ローデン那珂川 駐車場	仲2-5-1
安徳	⑲ 安徳北小学校 運動場	五郎丸1-11
	⑳ 安徳小学校 運動場	松木2-134
	㉑ 梶原運動広場	上梶原1-318-1
	㉒ 上梶原第一公園	上梶原733-3
	㉓ 下梶原公園	下梶原2-365-1
	㉔ 安徳南公園	下梶原2-323-1
	㉕ 大戸公園	下梶原2-303-28
	㉖ 仲公園	仲1-149
	㉗ 春田公園	五郎丸1-168
	㉘ 前田公園	松木1-211
	㉙ 大町公園	松木2-232
	㉚ 松木西公園	松木5-467-10
	㉛ 安徳公園	今光4-168
	㉜ 鷹取公園	今光3-259
	㉝ 野入公園	中原2-167
	㉞ 中森公園	中原5-105
	㉟ 板崎が丘公園	板崎が丘129
	㊱ 王塚台中央公園	王塚台2-135
	㊲ 王塚台東公園	王塚台1-179
	㊳ 王塚台西公園	王塚台3-82
	㊴ 王塚台南公園	王塚台2-346
	㊵ 王塚台北公園	王塚台1-82



震度と揺れの状況

震度5弱

- 大半の人が恐怖をおぼえ、物につかまると感じる。
- 棚にある食器類や本など、落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

震度5強

- 物につかまらないうまく歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本など、落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が倒れることがある。

震度6弱

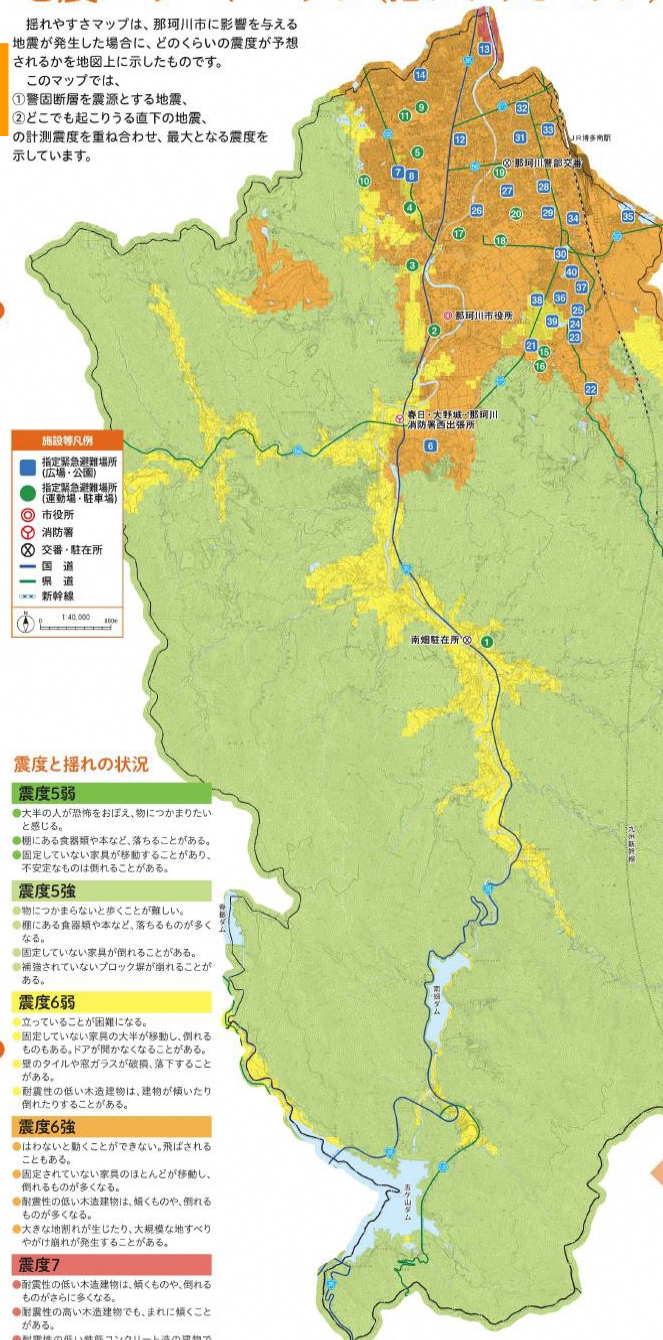
- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、建物が傾いたり倒れたりすることがある。

震度6強

- はわなにと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定されていない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりやがけ崩れが発生することがある。

震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



1 警固断層を震源とする地震



2 どこでも起こりうる直下の地震



災害に備えて防災気象情報を得る



●災害情報伝達
システムでの
サイレン



●広報車の
巡回放送



●テレビやラジオなど報道機関

●市ホームページ
への掲載
(トップページ
に掲載)

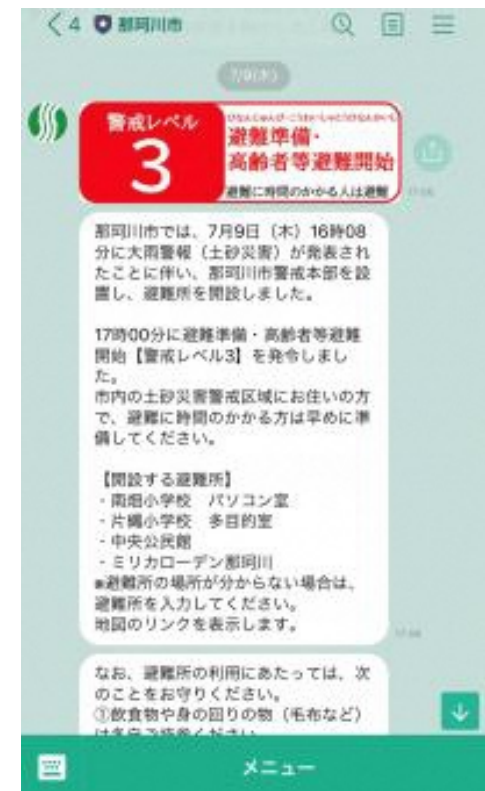


●防災メール・まもるくん、
TwitterやFacebook、
LINEなどのSNS



●市役所(災害対策本部)へ
直接電話

LINE公式アカウント



テレビ KBCデータ放送



雨の強さ、降り方と災害の危険性等

	やや強い雨 10～20mm未満	強い雨 20～30mm未満	激しい雨 30～50mm未満	非常に激しい雨 50～80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と 予 報 用 語					
人の受ける イ メ ー ジ	●ザーザーと降る	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と 屋外の様子	●地面からはね返りで足元がぬれる。	●傘をさしていてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

気象情報（相当）と避難情報（警戒レベル）

警戒レベル
市区町村 避難情報

警戒レベル「相当」情報
気象庁や都道府県等

警戒 レベル	状況	住民がとるべき 行動	行動を促す 情報	気象情報	キキクル (危険度分布)	
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保 (市町村)	大雨 特別警報		5 相当
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難！> ~~~~~						
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示 (市町村)	土砂災害 警戒情報	極めて危険 非常に危険	4 相当
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難 (市町村)	大雨警報 洪水警報	警戒	3 相当
2	気象状況悪化	自らの避難行動 を確認	大雨注意報 洪水注意報		注意	2 相当
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報 (警報級の可能性)			1 相当

# 分散避難

警戒レベル3や4が発令されたら、**危険な場所から避難**

「避難」とは「**難**」を「**避ける**」こと、安全な場所に逃れること  
危険な場所ではなく、安全が確保されるのであれば…

｜ 親戚宅、知人宅へ ｜ 在宅避難 ｜ ホテル泊 ｜ 車中泊

ただし**不安があれば、ためらわず避難所へ**





# 避難行動判定フロー／「難」を「避」ける行動

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

平時に  
確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、  
自宅の災害リスクととるべき行動を  
確認しましょう。

## 避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ **必ず取組みましょう**

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか  
確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの  
高い区域を着色した地図です。着色されていないところ  
でも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土  
地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村  
からの避難情報を参考に必要に応じて避難して  
ください。

はい

災害の危険があるので、原則として※、  
**立退き避難**（自宅の外に避難）が必要です。

例外

※浸水の危険があっても、  
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまう  
おそれの高い区域の外側である  
②浸水する深さよりも高いところにいる  
③浸水しても水がひくまで我慢できる、  
水・食糧などの備えが十分にある  
場合は**屋内安全確保**（自宅に留まり安全  
確保すること）も可能です。

解説は裏面をご覧ください

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間  
がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚  
や知人はいますか？

はい

警戒レベル3 高齢者  
等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に  
避難しましょう（日  
頃から相談しておき  
ましょう）

いいえ

警戒レベル3 高齢者  
等避難が出たら、市  
区町村が指定してい  
る指定緊急避難場所  
に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚  
や知人はいますか？

はい

警戒レベル4 避難指示  
が出たら、安全な親戚  
や知人宅に避難しま  
しょう（日頃から相談  
しておきましょう）

いいえ

警戒レベル4 避難指示  
が出たら、市区町村が  
指定している指定緊急  
避難場所に避難しま  
しょう





# 災害対策基本法の改正（令和3年5月）

## 趣 旨

頻発する自然災害に対応して、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保及び災害対策の実施体制の強化を図るため、以下の措置を講ずることとする。

## 改正内容

### 1. 災害対策基本法の一部改正

#### ①災害時における円滑かつ迅速な避難の確保

##### 1) 避難勧告・避難指示の一本化等

###### <課題>

本来避難すべき避難勧告のタイミングで避難せず、逃げ遅れにより被災する者が多数発生。  
避難勧告と指示の違いも十分に理解されていない。

住民アンケート

- ・避難勧告で避難すると回答した者：26.4%
- ・避難指示で避難すると回答した者：40.0%

###### <対応>

避難勧告・指示を一本化し、従来の勧告の段階から避難指示を行うこととし、  
避難情報のあり方を包括的に見直し。



避難情報の報道イメージ（内閣府で撮影）

##### 2) 個別避難計画（※）の作成

※避難行動要支援者（高齢者、障害者等）ごとに、  
避難支援を行う者や避難先等の情報を記載した計画。

###### <課題>

避難行動要支援者名簿（平成25年に作成義務化）は、約99%の市町村において  
作成されるなど、普及が進んだものの、いまだ災害により、多くの高齢者が被害を受けており、  
避難の実効性の確保に課題。

近年の災害における犠牲者のうち  
高齢者（65歳以上）が占める割合  
令和元年東日本台風：約65%  
令和2年7月豪雨：約79%

###### <対応>

避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、  
個別避難計画について、市町村に作成を努力義務化。

- 任意の取組として計画の作成が完了している市町村 約10%
- 任意の取組として一部の計画の作成が完了している市町村 約57%

※併せて、マイナンバー法を改正し、名簿・計画の作成等  
に当たりマイナンバーに紐付く情報を活用



避難行動要支援者が  
災害時に避難する際のイメージ



台風19号の爪痕 西日本新聞より

71河川128カ所  
堤防決壊

延べ **291** 路線  
鉄道の運休

 **307** 校  
休校

 **1** 人  
死者

15万  
5000  
戸以上  
断水(最大)

10人  
行方不明者

**52** 万戸以上  
停電(最大)

**群馬** 480  
試験貯水中のハツ場ダムの水位が満水に。富岡市と藤岡市で土砂崩れ

**長野** **31**  
千曲川の堤防決壊で長野市が浸水。北陸新幹線の車両基地で10編成120両も水に漬かった

千曲川流域  
■ ■ 950m

静岡 181 牧之原市で軽トラックが田んぼに転落し 男性死亡

**岩手**  **280**

宮城 163

**福島**  **29 8 1**  
阿武隈川の氾濫や土砂崩れにより各地で被害

**栃木** **480**  
秋山川の堤防決壊で佐野市が浸水するなど各地で水害

吉田川流域  
浸水面積  
5700㎡

阿武隈川流域

1万2600人

**埼玉 280**  
川越市の特別養護老人ホームが湯水で一睡り

**東京 180**  
多摩川の氾濫で住宅  
地が浸水。奥多摩町  
などで孤立集落も

4 3  
が浸水。  
二

**茨城** **281**  
那珂川や久慈川が氾濫し、水戸市や常陸大宮市で浸水被害

10~13日の  
雨量と平年の  
1カ月雨量(10)

東京・世田谷 272.0  
200.6

宮城・丸森 441.0

334.3



長野 10~13日 137.5mm  
 平年 82.8  
 島・郡山 201.0  
 111.1

139.7



# 災害対策基本法等改正の背景

## 「令和元年台風第19号等を踏まえた避難情報及び広域避難等に関するサブワーキンググループ」最終とりまとめ（概要）

### 課題と背景

①警戒レベル4避難勧告で避難せず被災する人が多いが、警戒レベル4の避難勧告、避難指示(緊急)の意味の違いが正しく住民に理解されておらず、また、両方が警戒レベル4に位置付けられ住民にわかりにくい

・住民ウェブアンケートでは、  
ー避難勧告・指示両方の意味を正しく理解していたのは2割未満

・市町村向けアンケートでは、  
ー警戒レベル4に避難勧告・指示の両方が位置付けられ住民にわかりにくいとの回答が約7割

②現行の警戒レベル5「災害発生情報」は、とるべき行動がわかりにくく、また、市町村が災害の発生を把握できず発令できないことが多いため、有効に機能していない

③現行の警戒レベル3「避難準備・高齢者等避難開始」は、名称が長く、また、一般の人に求める「避難準備」から名称が始まるため、高齢者等に避難を求める情報であることが伝わりにくい

・想定される浸水が浅く、上階への避難や高層階に留まることで安全確保できる住民等に対しても、立退き避難しか勧告・指示することができない  
・高齢者等に早期避難を促すことができる明確な規定がない

・災害発生前に国が対策本部を設置できない

・都道府県及び市町村は、災害対策本部を災害発生前に設置できるのに対し、国は、非常災害が発生した場合にしか本部を設置することができない

・大規模広域避難が必要な「災害が発生するおそれ」の段階で、国・都道府県・市町村・民間事業者等が連携して対応する必要がある

・「災害が発生するおそれ」の段階で、地方公共団体が、避難先・避難手段の調整を行う仕組みがない

### 対応の方向性

①避難のタイミングを明確にするため、警戒レベル4の避難勧告と避難指示(緊急)を「避難指示」に一本化  
(現行で避難勧告を発令しているタイミングで、避難指示を発令する)

②災害が発生・切迫し、警戒レベル4での避難場所等への避難が安全にできない場合に、自宅や近隣の建物で緊急的に安全確保するよう促す情報を、警戒レベル5「緊急安全確保」として位置づけ

③早期の避難を促すターゲットを明確にするため、警戒レベル3の名称を「高齢者等避難」に見直し

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	参考 (現行)
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難！> ~~~~~				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(注)	避難指示(緊急) ・避難勧告
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである

(注) 避難指示は、現行の避難勧告のタイミングで発令する

・警戒レベル4避難指示で、上階への避難や高層階に留まることで安全確保できる住民等に対しては必ずしも立退き避難を求めないことを可能とする規定とし、屋内で安全確保することも促すことができるようにする
・警戒レベル3で高齢者等に避難すべきタイミングである旨を情報提供し、早期避難を呼びかけることができる規定とする

・「災害が発生するおそれ」の段階での国の対策本部設置の制度化

・広域避難の準備・開始の段階で、広域避難を円滑に行うために、「災害が発生するおそれ」の段階でも国が対策本部を設置し、本部長から地方公共団体の長や公共交通機関等に対し、必要な指示や協力を求めることができるように制度化

・「災害が発生するおそれ」の段階で、地方公共団体が避難先・避難手段の協議・要請を行える仕組みの制度化

避難情報関係

広域避難関係

令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の避難に関するサブワーキンググループ最終とりまとめ（概要）

課題と背景

対応の方向性

避難行動要支援者名簿関係

- 避難行動要支援者名簿は、98.9%の市区町村で作成を完了しているが、真に避難支援を要する者を正確に把握できていない場合がある。

- 避難行動要支援者名簿に掲載すべき者が掲載されないことを防ぐため、福祉専門職やかかりつけ医などの医療職のほか、地域の鍵となる人や団体との連携。

個別計画関係

- 過去の災害で高齢者や障害のある方が被害※を受けていることを踏まえれば、災害時の避難支援等を更に実効性のあるものにするためには、何らかの方策が必要である。

※過去の災害における高齢者の死者の割合

- ・ 令和2年7月豪雨 約79% ※65歳以上
(うち熊本県 約85%)
- ・ 令和元年台風第19号 約65% ※65歳以上
- ・ 平成30年7月豪雨 約70% ※愛媛県、岡山県、広島県の死者数のうち、60代以上
(うち市町村別死者数最大の倉敷市真備町 約80%) ※70歳以上

- 個別計画の策定が必要な者の優先度や個別計画の内容を検討する際には、当事者本人の心身の状況や生活実態等の情報が必要となる。

- 災害時の避難支援等を実効性のあるものとするためには個別計画の策定が有効。個別計画について、制度上、市区町村が策定に努めなければならないものとして位置付け、さらに取組を促進。

- 市区町村が策定の主体となり、福祉専門職、社会福祉協議会、民生委員等の日常の支援者及び地域住民と連携して策定。

- 災害の危険度の高いところなど優先度の高い方から個別計画を策定。並行して、本人(状況により、家族や地域)が記入する本人・地域記入の個別計画を策定。

- 人材の確保と育成を支援する仕組みづくり、市区町村の個別計画策定の取組に対する財政的な支援、また、モデル地区を設定した取組を実施し検証することが重要。

福祉避難所等関係

- 平素から利用している施設へ直接に避難したいとの声がある。
- 指定避難所として公表されると、受入れを想定していない被災者の避難により、福祉避難所としての対応に支障を生ずる懸念があるため、指定避難所としての福祉避難所の確保が進まないとの指摘がある。
- また、要配慮者の避難先となるべき福祉避難所など福祉的な支援を受けられる施設やスペース等の位置付けや在り方が明確でない。

- 個別計画の策定プロセス等を通じて、事前に避難先である福祉避難所ごとに受入れ者の調整等を行い、福祉避難所等への直接の避難を促進。

- 福祉避難所ごとに、受入対象者を特定してあらかじめ指定の際に公示することによって、受け入れ対象者とその家族のみが避難する施設であることを明確化し、福祉避難所における受け入れを促進。

- 小規模な施設やスペースでも、主として要配慮者の滞在が想定される場合は、福祉避難所の指定が適当であること等を明確化。

地区防災計画関係

- 地区防災計画は、地域のコミュニティレベルでの避難行動に大きく貢献するとともに、避難行動要支援者の把握や避難の呼びかけなどを通じて、個別計画を実践する上でも大変重要な役割を果たすことが期待される。
- 地区防災計画の普及について、地区住民等が計画素案を作成する際に、地区住民等の機運を高め、助言・誘導できるような計画作成支援者（地域での防災関係の有識者、市区町村職員など）が不足していることが課題である。

- 事例集など地区防災計画の普及啓発の取組とともに、計画素案作成を支援する仕組み、人材の育成の仕組みを構築。

- 個別計画とあわせて災害の危険度の高い所から優先的に策定を促すとともに、地区防災計画の素案の策定が、地区のあらゆる人が参画するものとなり、また、個別計画がある場合には整合を図れるよう、防災、福祉、医療的ケアを理解する方など地域の様々な分野の方が関わる環境を整える。

「想像」から「想定」そして「行動」へ～地域の防災活動～

自治会・町内会を単位とした地域の取組 筑紫野市みかさ台自主防災会

- ◆人口等
 - ・ 958人 417世帯 高齢化率51.5%
- ◆経緯
 - ・ 平成20年：準備委員会設立（7名）
 - ・ 平成21年：総会の承認を得て正式設立
 - ・ 平成24年：福祉活動を追加（みまもり隊発足）
- ◆会の目的
 - ・ 防災、防犯、福祉の活動を通じて安心・安全なまちづくりをめざす
- ◆会の特徴
 - ・ 区会に加入の全員が構成員
 - ・ 円滑な運営、活動のために自主防災委員会を設置
- ◆会の組織
 - ・ 会の代表：自主防災会会長 ⇔ 区長
 - ・ 会の運営：自主防災委員長 ⇒ 委員長
- ◆会の運営
 - ・ 区会より活動費として年間120,000円支給

■防災訓練（年2回）

6月：公民館を主に避難訓練・消火訓練・通報訓練



12月：団地全体で総合的に避難訓練・消火訓練・搬送訓練



■防災マップの作成

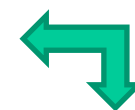




防災器具保管庫



ベンチのふたをとって
炭を入れているところ



防災かまどベンチ



かまどベンチは
公民館前に2基
瀬戸山公園に2基
あります

会員さんの
手作りです！



■ 日常の活動

○会議による情報交換

自主防災委員会：偶数月の第1水曜日

みまもり隊：奇数月の第1水曜日

○「自主防災会だより」による情報発信

毎月1回：回覧板

○「守るんじゃー新聞」による情報発信

年2~3回：全戸配布

○普通救命講習 I

120名超が受講

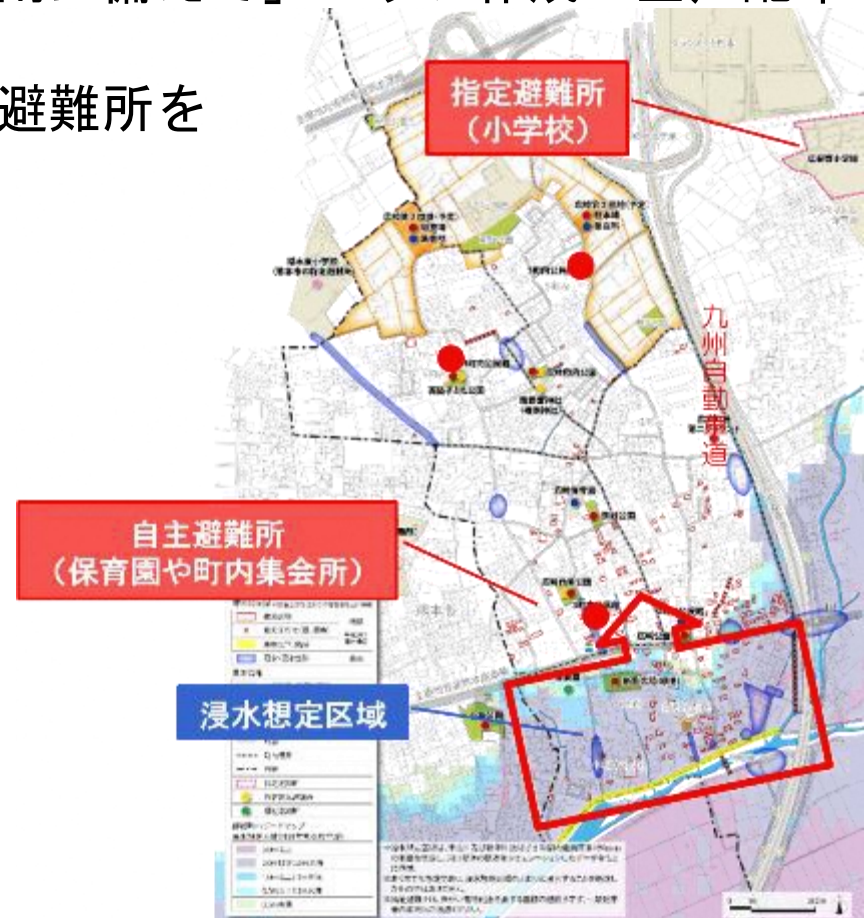


複数の自治会・町内会を単位とした地域の取組 益城町広崎地区まちづくり協議会

◆人口等 6,140人 2,413世帯

◆経緯 平成29年：復旧復興のためのまちづくり協議会発足
平成30年：まちづくり提案書作成（避難路・避難広場）
平成31年：地震や豪雨に備えて、勉強会（ワークショップ）開催
令和元年：「地震や豪雨に備えて」マップ作成・全戸配布

◆自主避難所（協定避難所）：
指定避難所以外に、身近で安全な避難所を
地域で決めて協定を締結

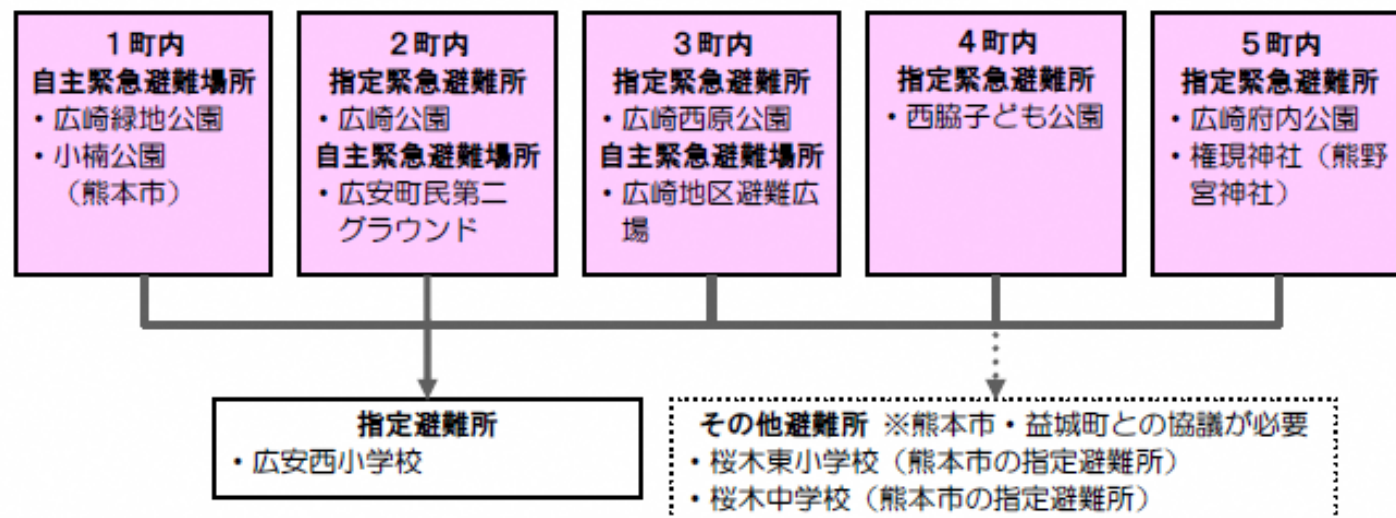


◆地震の際の 地区の対応

■地震に備えて（震度5強以上）

①避難場所

強い揺れを感じたら、まず緊急的に自主緊急避難場所や緊急指定避難所に集まって、近隣の方の安否を確認しましょう。避難が長期化しそうな場合は、近隣の方に声を掛け合いながら指定避難所へ避難しましょう。



②地震の際の広崎地区の対応

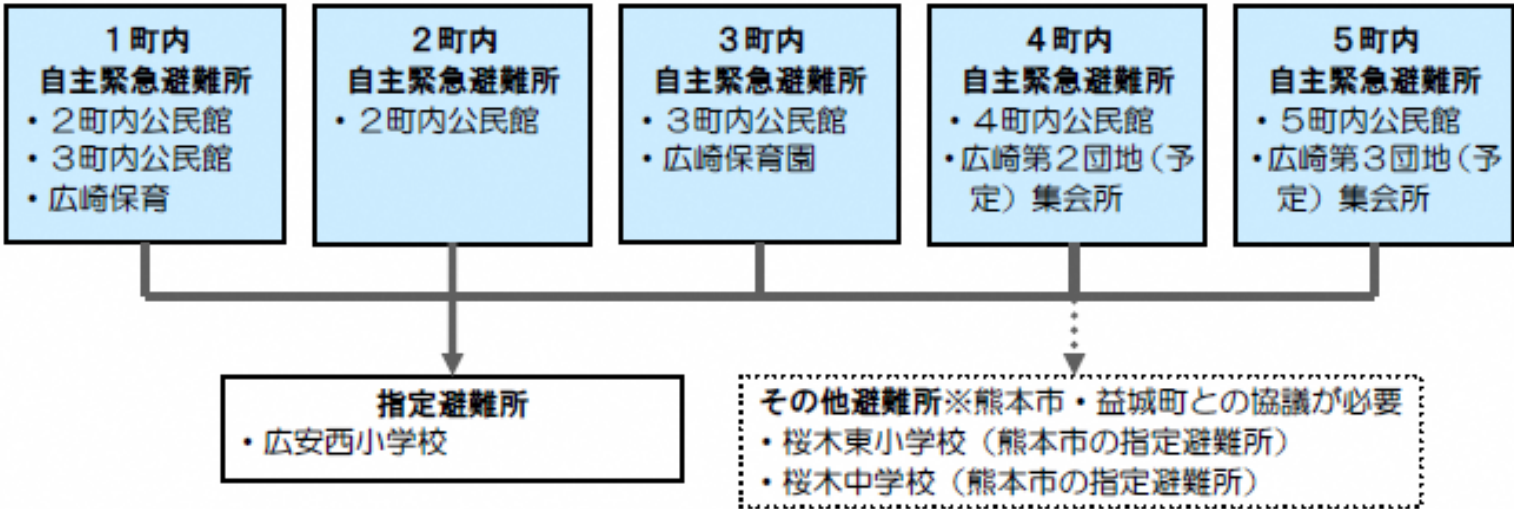
	班	各町内	地区本部（区長会）
発災初期	・ 隣近所への声かけ ・ 指定緊急避難所や自主緊急避難場所へ集合 ・ 情報の収集（可能な限り） ・ 高齢者等の安否確認 ・ 被害状況確認	・ 役員集合 ・ 体制（リーダー）決め ・ 情報の収集 ・ 高齢者等の安否確認 ・ 被害状況確認 ・ 本部への連絡	・ 区長集合 ・ 町内情報の収集 ・ 調整・連絡（各町内・町）
指定避難所		・ 連絡、避難所運営体制の整備 ・ 避難者名簿の作成 ・ 避難者の振り分け ・ 高齢者等の安否確認 ・ 高齢者等の援助	
課題等	・ 自主緊急避難場所の周知 ・ 避難行動要支援者（高齢者等）の把握 ・ 水、飲食物の確保（地下水使用可能箇所の把握）		

■大雨の際の 地区の対応

■豪雨に備えて

①避難所

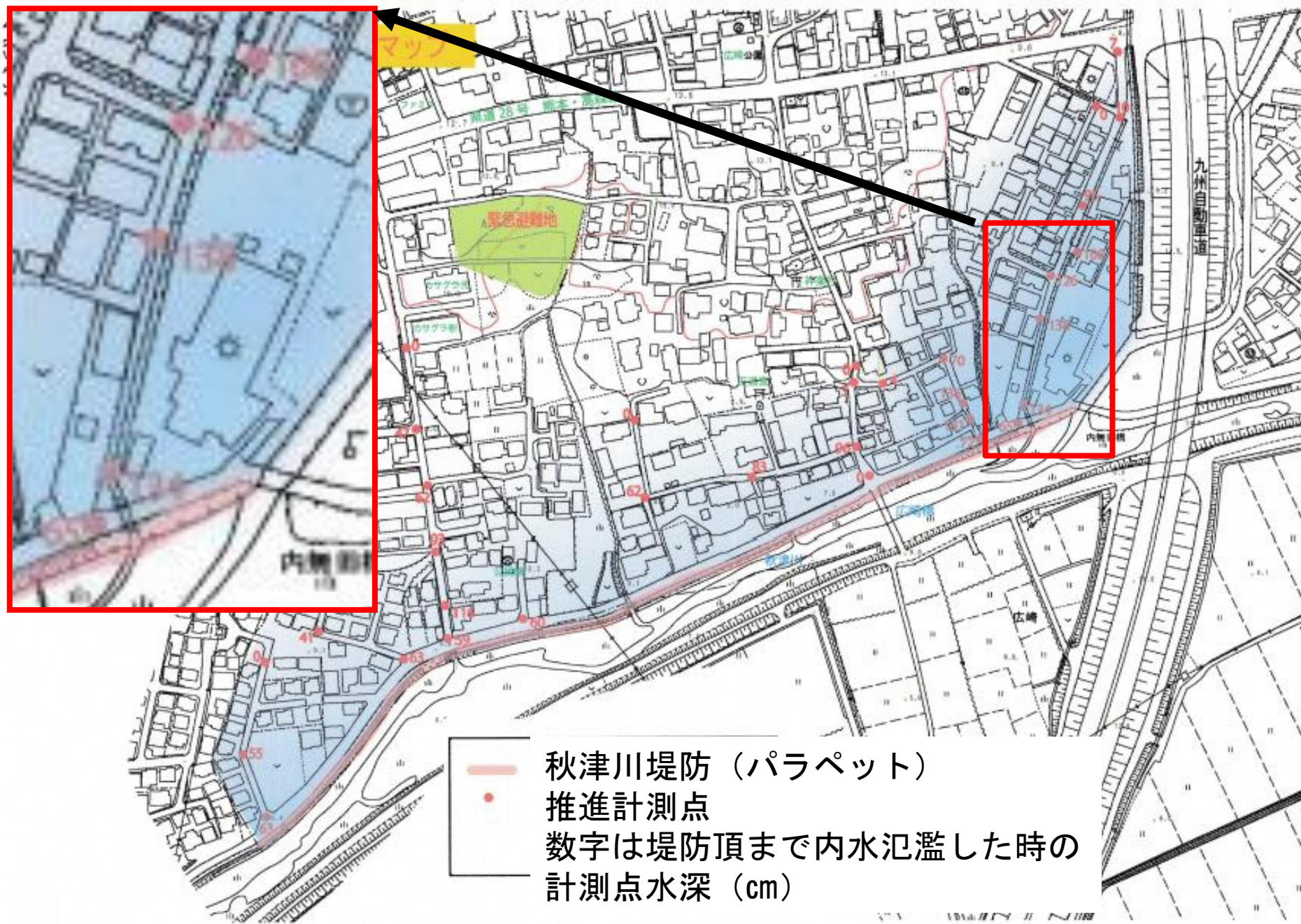
気象情報や避難情報に注意し、隣近所で誘い合って早めに自主緊急避難所に避難しましょう。避難が危険な場合は、自宅をはじめ屋内の高所などで安全を確保しましょう。



②豪雨の際の広崎地区の対応

	班	各町内	地区本部（区長会）
警戒レベル2 大雨注意報 大雨警報・洪水警報 ↓ 警戒レベル3 避難準備・高齢者等 避難開始 警戒レベル4 避難勧告 避難指示（緊急）		・情報の収集・確認	
	・自主緊急避難所開設 ・避難行動要支援者への避難の呼びかけ・援助	・自主緊急避難所開設 ・避難行動要支援者への避難の呼びかけ・援助 ・避難者の把握 ・被害状況（要安全確認）	・区長集合 ・気象情報等の収集 ・避難者の把握 ・被害状況の把握 ・調整・連絡（各町内・町）
	・避難行動要支援者への避難の呼びかけ・援助 ・住民への避難、屋内での安全確保の呼びかけ	・避難行動要支援者への避難の呼びかけ・援助 ・住民への避難、屋内での安全確保の呼びかけ	
課題等	・避難行動要支援者（高齢者等）の把握 ・連絡体制と方法 ・避難の援助体制		

■ 広島 1 町内ハザードマップ



小学校区等を単位とした地域の取組 福岡市博多区美野島地区防災委員会

- ◆人口等 11,234人 7,262世帯 高齢化率15.6%
- ◆経緯 平成28年：災害に強い美野島を目指した取組
- ◆発災後の各町内会の地区集合場所とその後の避難：
地区集合場所・災害対策本部の体制

地区集合場所に集合

地区集合場所の運営

避難所へ避難

地区集合場所の体制と運営の基本形（町内の状況に応じて対応）

地区集合場所の体制と運営

地区隊長
（自治会長等）

副会長等

民生委員・児童委員

防災委員

地区住民

※必要に応じて「情報班」「救護班」「救助班」「消火班」などを編成

※防災委員長、自治協議会長が所属する自治会は、防災委員長、自治協議会長以外が地区隊長となる

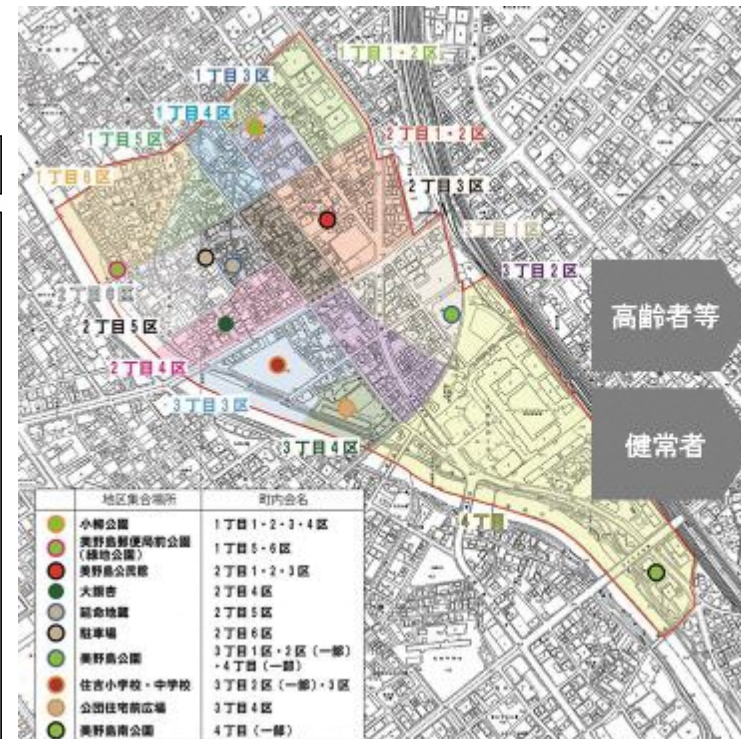
↑ 情報共有 ↓

美野島災害対策本部（美野島公民館）

自治協議会長

防災委員長

公民館長・主事



美野島公民館

高齢者等

健常者

住吉小学校
住吉中学校

◆地区集合場所運営マニュアル

項目	取り組むこと
運営体制を整える	◆自治会の倉庫から地区集合場所の目印となる旗を出しましょう。
	◆集まった人の中から、集合場所のリーダーを決めましょう。 ※地区隊長（自治会長）がいる場合は、地区隊長がリーダーとなります。
揺れが落ち着いた後に、協力して次のようなことに取り組みましょう。 それぞれの取り組みは、最低2人1組で行いましょう	
被害状況を確認	◆町内で建物等の倒壊や火災が発生していないか確認しましょう。
	◆火災が起こっている場合、周囲に知らせるとともに、初期消火に努めましょう。 ※一般的に、炎が天井または、自分の身長以上に達するまでが消火できる目安です。
	◆被害状況の確認ができれば、その結果をリーダーに報告しましょう。
安否を確認	◆家族の安否を確認しましょう。
	◆隣近所の安否を確認しましょう。
	◆町内を見回り、避難が完了している住宅は、できる限り白いタオル（布）を玄関に掲げましょう。
	◆負傷した人がいる場合は、応急手当をしましょう。
	◆安否確認ができれば、その結果をリーダーに報告しましょう。
要配慮者の避難	◆リーダー又は民生委員は、地区集合場所での要配慮者の避難状況を確認しましょう。
	◆リーダー又は民生委員の指示のもと、要配慮者の避難を支援しましょう。
	◆要配慮者の避難が完了したら、その結果をリーダーに報告しましょう。
公民館に連絡	◆リーダーは、各取り組みの結果について、公民館に連絡しましょう。 美野島公民館（TEL:092-474-0070）
	※電話連絡が難しい場合は、公民館との連絡役を立てるなど、情報共有するための工夫をしましょう。
被害が大きい場合	
避難所へ誘導	◆避難所の開設状況を確認しましょう。
	◆被害状況や避難所の開設状況から避難所への移動を判断し、その結果を公民館へ連絡しましょう。
	◆安全を確認し、避難所へ誘導しましょう。

◆初動期における地区対策本部運営マニュアル

項目	取り組むこと
地区対策本部の 立ち上げ	1. 自治協議会会長、防災委員会委員長、公民館館長、公民館主事は、自分の身の安全を確保した上で、美野島公民館に速やかに集まり、地区対策本部を立ち上げる。 2. 地区対策本部は、自治協議会会長を本部長として、防災委員会委員長、公民館館長を副本部長、公民館主事は庶務を担当する。 ※自治協議会会長及び防災委員会委員長が自治会長（地区隊長）の場合、地区隊長は副会長又は役員に願います。
地区対策本部の 役割	1. 情報収集（以下の情報を収集し、自治会ごとに整理する） ①地区集合場所のリーダーから収集する情報 - 地区の被害状況 - 地区住民の安否確認の状況 - 要配慮車の支援状況 - その他必要な情報 ②市、区役所から収集する情報 - 災害の状況 - 避難所の開設状況 - ライフラインの状況 - その他必要な情報（避難行動要支援者名簿等） 2. 情報提供（以下の情報を自治会ごとに提供する） ①地区集合場所のリーダーに提供する情報 - 災害の状況 - 避難所の開設状況 - ライフラインの状況 - その他地区集合場所を運営する上で必要な情報（避難行動要支援者名簿等） ②市、区役所に提供する情報 - 地区の被害状況 - 地区住民の安否確認の状況 - 要配慮者の支援状況 - その他市、区役所からの要請に対して対応できる情報
地区対策本部の 移行	1. 地区対策本部は、住吉小・中学校に避難所が開設された場合は、そちらに移行する。本部長及び副本部長（防災委員会委員長）は、速やかに避難所へ移動し、避難所では、引き続き、情報収集と情報提供を行うとともに、避難してきた地区集合場所リーダーや防災委員、民生委員・児童委員、その他健常な避難者と協力して避難所の運営を行う。 2. 公民館は、第2避難所として要配慮者を中心とした避難所とし、公民館長、公民館主事を中心として運営を行う。

◆防災タイムライン（水害編） の検討



美野島地区防災タイムライン案（水害編）

気象状況	気象台 (気象情報)	避難情報等 (目安)	美野島地区防災委員会	
			自治会長・防災委員が行うこと	住民に行って欲しいこと
大雨の約2日前 (天気予報で大雨の可能性が指摘される)		警戒レベル1	●情報の入手 ・気象情報の入手 (dボタン等) ●確認・周知 ・避難場所の確認・周知 ・備蓄品の確認 ●避難に備える ・町内の避難行動要支援者の確認と声掛け (日頃からの民生委員さんと連携する)	●情報の入手 ・ヤフー防災等のアプリを登録する ●情報に注意 ・気象情報に注意する (天気予報を良く見る) ・dボタンの使い方を確認する ●避難に備える ・2日分くらいの食料、水の確保、懐中電灯を用意する ・避難場所と避難方法、経路を確認する ・障がい者、高齢者等に声掛けする ●内水氾濫に備える ・排水口の手入れ (掃除) をする
大雨の約1日前 (大雨の可能性が高くなる)	大雨に関する気象情報		●情報の入手 ・気象情報の入手 ・町内の避難行動要支援者の情報を集める (各家の様子確認、日頃からの民生委員さんと連携する)	●情報に注意 ・雨の降り方に注意する ●情報の入手 ・気象情報の入手 ●避難に備える ・前日にできなかったことをする ・台風の場合、物干し竿を下ろす、家の回りで飛びそうなものを動かす、窓ガラスの飛散防止対策、車を安全な場所に移動 ・最後の買い物
大雨の半日から数時間前 (雨が降り始める) 雨が強さを増す	大雨・洪水注意報 氾濫注意報	警戒レベル2	●災害に備える ・お酒を控えるようにする ●情報の入手 ・ヤフー防災等のアプリを活用し気象情報を確認する ●身の安全の確保 ・自分、家族の安全を考える ●避難のタイミングを確認する ・公民館に避難所開設のタイミングを確認する ●避難の判断 ・地域ごとに避難所等への移動が必要かの判断を行う (内水氾濫にも気をつける) ●避難の呼びかけ ・余裕があれば住民に避難を呼びかける (避難所又は安全な場所に行くように促す) ・連絡網で状況を確認する ●氾濫に備える ・土のう (土いらず) を設置する	●情報の入手 ・ヤフー防災等のアプリを活用し気象情報を確認する ●持出品の確認 ・持出品 (物) を検討する (「アマビエタソウ」、常用薬等を忘れないようにする) - ア: アルコール消毒液 - マ: マスク - ビ: ビニール手袋 - エ: 衛生用品 (簡易トイレ等) - タ: 体温計 - ソ: ソープ (せっけん) - ウ: 上履き ●避難に備える ・スマホ等の充電、お風呂や鍋に水を貯める ●避難場所・経路の確認 ・避難する場合の場所、経路を確認する ●車の移動 ・地下駐車場の車の移動 (高台の駐車場に移動) ●氾濫に備える ・土のう (土いらず) を準備する
大雨の数時間前から2時間程度前 雨が一層激しくなる	大雨・洪水警報 氾濫警戒情報	警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始	●情報の入手 ・各地区の避難情報を収集する ・河川水位をネットやdボタンで確認する (稲荷橋) ・急な増水時は1時間毎に他の防災委員にも知らせる ・福岡市の公式LINE、ツナガル+の通知に注意する ●避難 ・家族を先に避難させる ・避難行動要支援者など避難支援が必要な方を支援する	●安全の確保・不要不急の外出を控える ・自分、家族の安全を確認する ・大事な行事、用事のキャンセルを検討する (遠方への外出を控える) ●予防的避難 ・最も安全な場所に早めに避難する ・防災委員等の避難の呼びかけに従う ・避難にあたって補助が必要な人は、町内会長や防災委員に申し出る (電話連絡する) ・マンションで1階、2階の方は高層階に移動する
これまでに経験のない大雨となる	記録的短時間大雨情報 (時間雨量 110 mm) 氾濫危険情報	警戒レベル4 避難勧告 避難指示 (緊急)	●情報入手 ・河川水位をネットやdボタンで確認する (稲荷橋) ●避難 ・2階以上のより高い所、安全な所に移動	●情報入手 ・河川水位をネットやdボタンで確認する (稲荷橋) ●避難 ・2階以上のより高い所、安全な所に移動 ●トイレ対策を考える ・逆流を防ぐために、2重にした20Lごみ袋に水を入れて便器の中に入れる (水のう)
大雨が止んだ	解除	解除	●被害状況の確認 ・浸水があった場合、その場所を確認する ●安否の確認 ・避難行動要支援者を中心に安否確認する	●被害状況の報告 ・浸水被害に遭った場合は、自治会長や公民館、防災委員に連絡・報告する

◆美野島地区新型コロナウイルス感染症対応避難所開設訓練（R2. 8. 23）

目的：昼夜を問わず起こる災害に際し、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所の開設、避難者受け入れ

想定：福岡管区気象台より「大雨洪水警報」を発表

福岡市では「警戒レベル4 避難勧告」を発令

公民館職員と自主防災組織が避難所を開設、連携し、避難者の受け入れと感染が疑われる避難者を誘導

参加者：公民館職員、防災委員、自治協議会役員

監修・助言：第一薬科大学



地域での取組 ～避難スイッチ～

「自分たちの目」で確認した情報で避難を始める基準



避難を始めるきっかけ（タイミング）

住んでいる場所や住宅の種類等々でそれぞれ違うが…

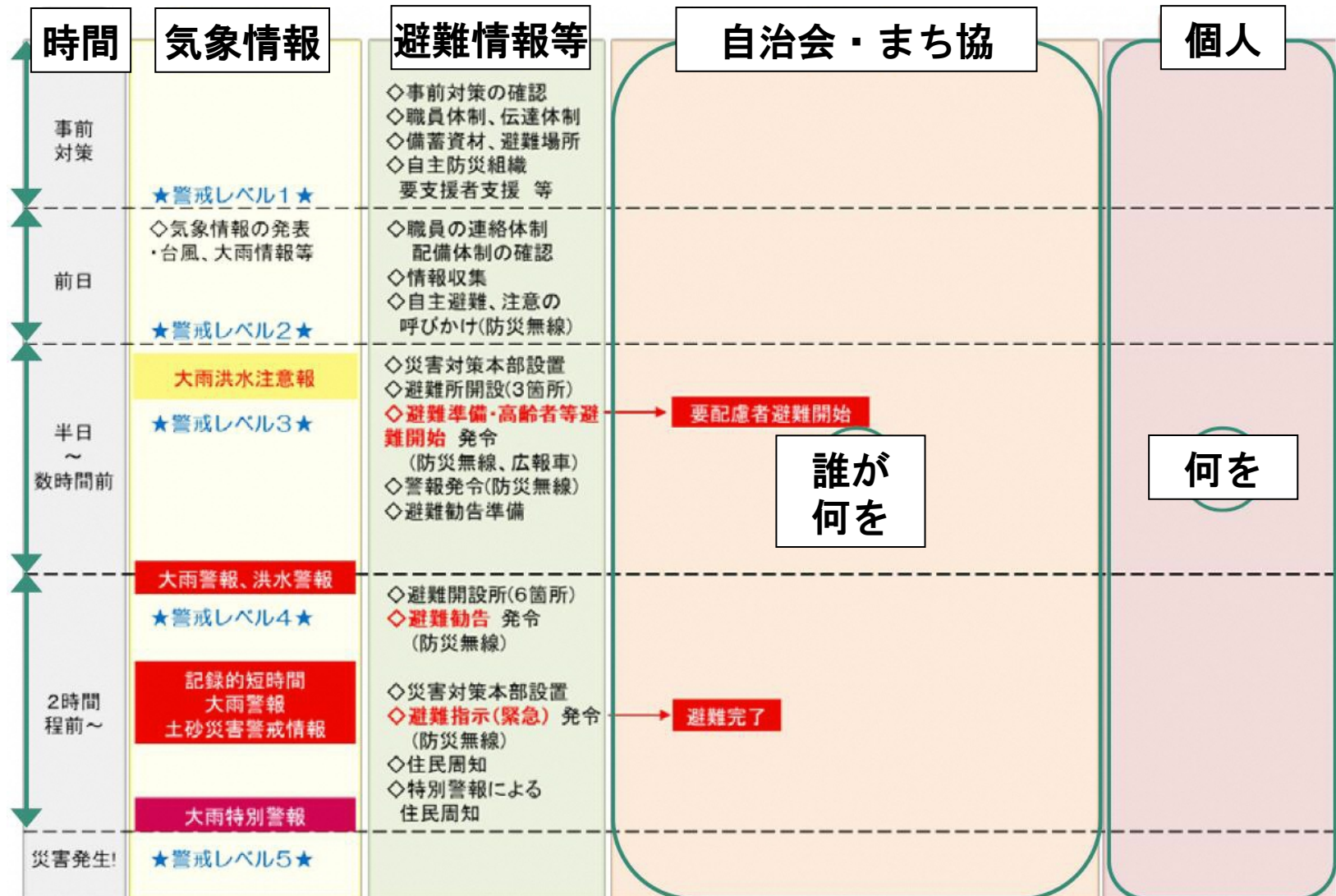
- ①避難情報（市町村から発令）
- ②環境の異変（いつもと違うな…）
- ③他者の働きかけ（誘い合う）

「空振り」ではなく「素振り」



地域での取組 ～タイムライン～

起こりうる災害に対して、時系列で
「いつ」「誰が」「何をする」を整理した行動計画



「すぐに」「すばやく」「すえながく」～自主防災組織と活動～

自主防災組織とは？

- 「自分達の地域は自分達で守る」という自覚と連帯感に基づき、自主的に結成する組織
 - 地域（町内会・自治会や小学校区程度の範囲）の自主防災活動（自助、互助の取組）を促進する組織
- ▼
- 町内会や自治会、小学校区の単位で、の地域住民等が参加し、日頃から防災活動に取り組む組織

町内会・自治会とは別に組織を設立するのは？

- 災害はいつ起きるか予想できないことから、地域での防災活動の位置づけを明確にし、数十年という長期の視点で地域での防災の取組の継続性を担保

自主防災組織の特性

- 即応性：すぐに対応（顔の見える関係）
- 連帯性：同じ地域・環境に住む仲間
- 日常性：日常生活の繋がりの中で活動（祭り、もちつき、運動会等）
- 密着性：地域内のきめ細かな情報

自主防災組織

- ・ 住民参加の避難訓練
- ・ 災害時要援護者の避難支援
- ・ 情報伝達網の作成



行政,公的機関等

- ・ 水防本部の設置
- ・ 避難所の開設
- ・ 避難勧告等の発令
- ・ 災害情報の伝達



地域住民



- ・ 避難場所、経路の確認
- ・ 非常用バッグの準備
- ・ 食糧などの備蓄



自主防災組織の基本的な班編成

編成班名		日常の役割	災害時の役割
総務班	→	全体調整 他機関との連絡調整 避難行動要支援者の把握	全体調整 他機関との連絡調整 被害・避難状況の全体把握 (避難行動要支援者の避難状況等)
情報班	→	情報の収集・伝達 広報活動	状況把握 報告活動
消火班	→	器具点検 防火広報	初期消火活動
救出・救護班	→	資機材調達・整備	負傷者等の救出 救護活動
避難誘導班	→	避難路(所)・標識点検	住民の避難誘導活動
給食・給水班	→	器具の点検	水、食糧等の配分 炊き出し等の給食・給水活動

自主防災活動

色々な防災訓練やイベント

地域を防災的な視点から点検し、防災マップを作製

**防災
まち歩き**

防災クイズに答えながら街中を歩き、地域の防災について学ぶ

**防災
ウォークラリー**

実際の街中を会場として防災訓練を実施する

**まちなか
訓練**

担架による荷物運び競争や土のうづくり競争など、「防災」の視点を取り入れた運動会

**防災
運動会**

**クロス
ロード**

災害時に発生する様々な問題について検討しあう

**DIG
(災害図上訓練)**

想定した災害について、地図上で災害対応について話し合う

**本部運営
訓練**

**避難
訓練**

**炊き出し
訓練**

**給水
訓練**

**HUG
(避難所運営ゲーム)**

**避難所
運営・
宿泊訓練**

他の訓練現場を見学することで、訓練の準備や進め方などの理解が深まる

「すぐに」「すばやく」「すえながく」

災害時の基盤となる 平常時の地域活動

乳幼児

世代間交流

小中学生

訪問・見守り

保護者

お祭り・イベント

高齢者 等々

防災訓練

災害時の活動
に活かす

災害時の活動



避難行動要支援者

日常の活動
に活かす

避難訓練・避難所運営訓練

各町内会の避難場所から小学校体育館へ→町内会別に受付



町内会別にエリアを区分、誘導→町内会ごとに救援物資を支給



災害図上訓練（各町内別に）



子ども達と一緒に訓練



運動会のプログラムの一つに



子ども達と一緒にまち歩き（防災さんぽ）



避難行動要支援者調査

新旧隣組長で訪問 安否確認調査



避難行動要支援者等への勉強会

サロンや敬老会で
少し時間をとって
災害ことや
避難行動要支援者のことを
情報提供

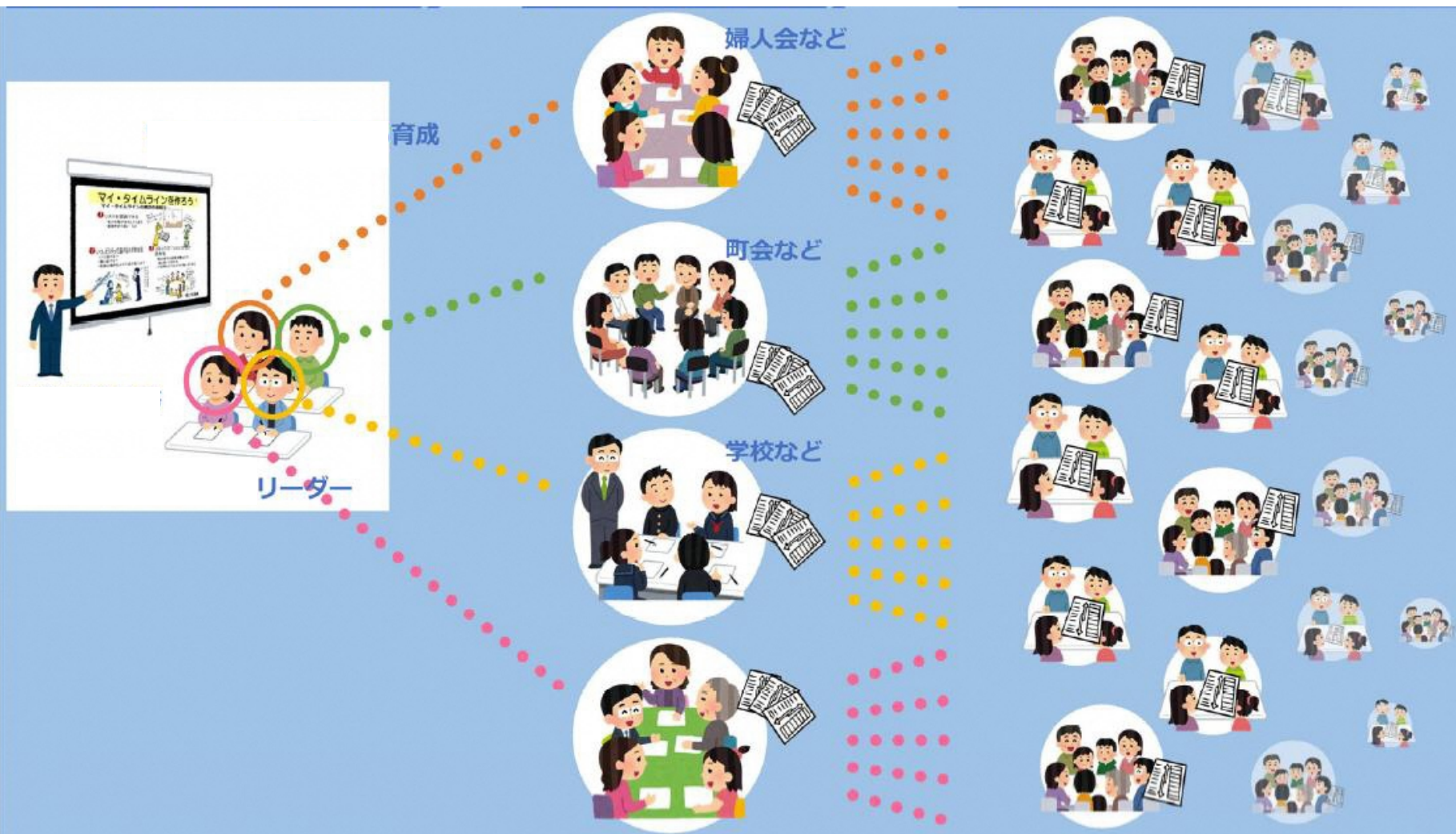


防災リーダー「防災士」に求められる役割

防災士

地域へ

家庭へ



「自助」「共助」「公助」

災害時では…

自分の身は自分で守る

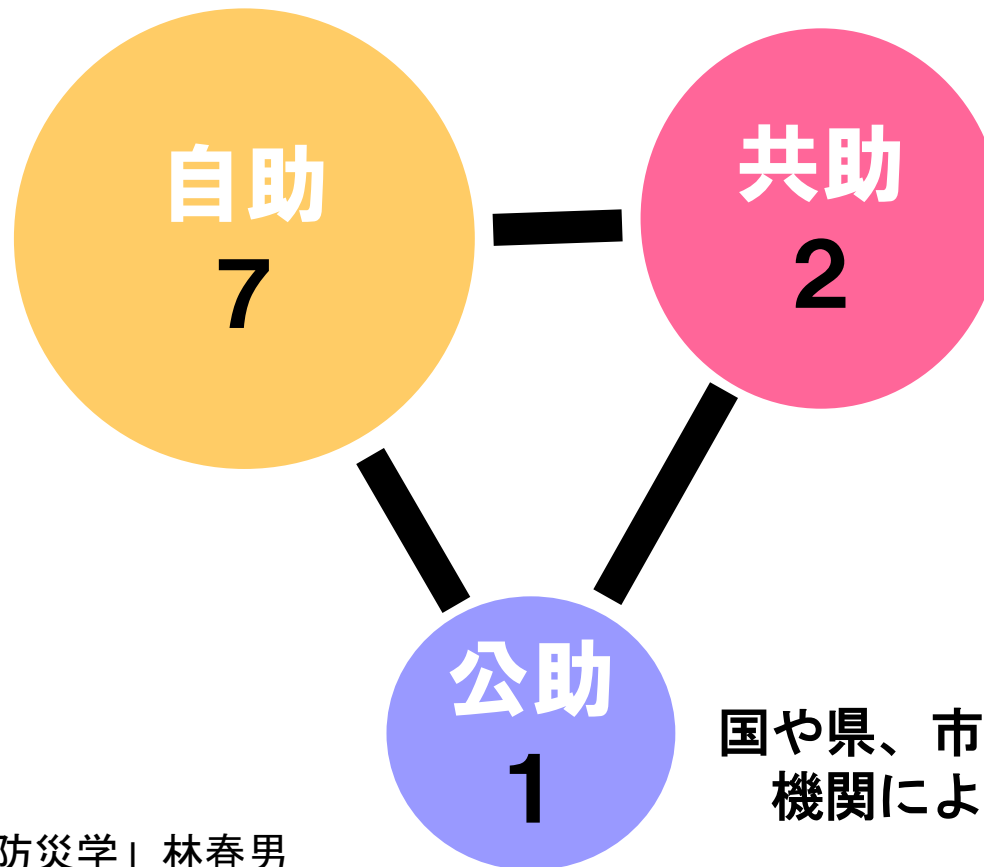
自分（家族）にできることは？

自分（家族）にしかできないことは？

地域や近隣で互いに協力し合う

自分達にできることは？

自分達にしかできないことは？



国や県、市などの行政、消防
機関による救助・援助等

平常時では…

自分の身は自分で守る

自分（家族）にできることは？

自分（家族）にしかできないことは？

地域や近隣で互いに協力し合う

自分達にできることは？

自分達にしかできないことは？

自助

共助

公助

「自助」「共助」の重要性
が言われるが…

もちろん重要！

でも「公助」は？

「公助」があってこそその
「自助」「共助」

でも現実にはできていない

追いついてない

国や県、市などの行政、
消防機関による救助・援助等

行政がやらなければならない
ことは？

できていることは？

Q. 地域の防災活動に適切に助言できていますか？

Q. あなたの市町村が指定している避難所は、誰もが安心して避難できる、受け入れられる避難所となっていますか？

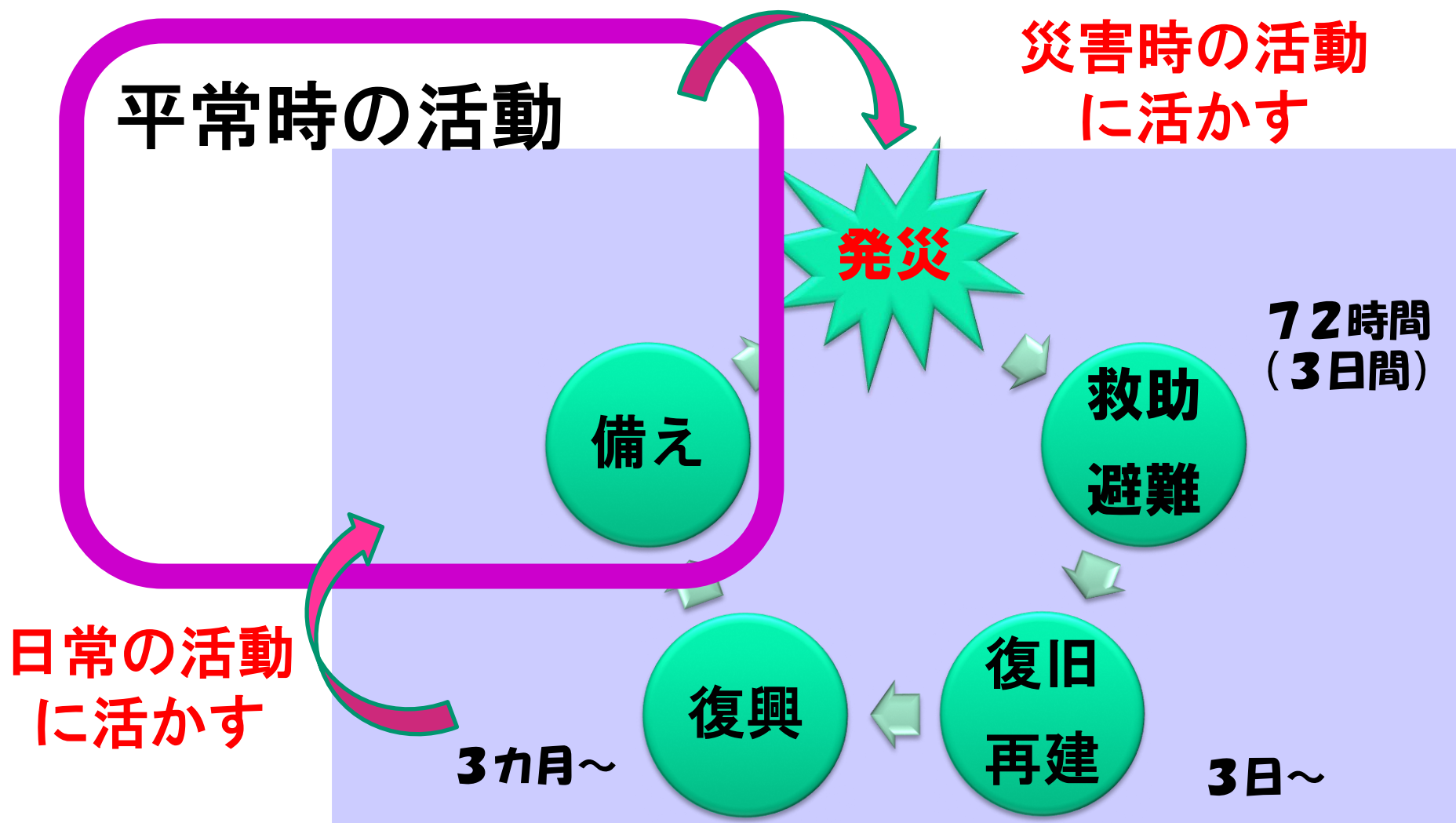
Q. 福祉避難所って知っていますか？

Q. 避難行動要支援者名簿、登録後は地域任せにしていますか？

Q. 個別計画や地区防災計画の作成の予定は？

Q. コミュニティ担当、防災担当、福祉担当、教育委員会等々はバラバラではありませんか？連携できていますか？

「想像」そして「想定」から「行動」へ



「すぐに」「すばやく」「すえながく」

災害時の基盤となる
平常時の地域活動

乳幼児

世代間交流

小中学生

訪問・見守り

保護者

お祭り・イベント

高齢者 等々

防災訓練



災害時の活動に活かす

災害時の活動



避難行動要支援者

日常の活動に活かす

